



ヘルメスの翼に

— 小樽商科大学 F D 活動報告書 —

第 12 集

目 次

まえがき

— 学 部 編 —

第 1 章 「授業改善のためのアンケート」集計結果（報告）
平成 30 年度（2018 年度）～令和元年度（2019 年度）

— 大学院商学研究科（現代商学専攻） 編 —

第 2 章 大学院 F D アンケート集計結果（報告）
平成 30 年度（2018 年度）～令和元年度（2019 年度）

— 大学院商学研究科（アントレプレナーシップ専攻） 編 —

第 3 章 「授業評価アンケート」集計結果と分析
平成 30 年度（2018 年度）～令和元年度（2019 年度）

— 実 施 報 告 —

第 4 章 F D 研修会・シンポジウム等
平成 30 年度（2018 年度）～令和元年度（2019 年度）

小樽商科大学グローバル戦略推進センター教育支援部門

(2018～2019 年度)

まえがき

本報告書「ヘルメスの翼に―小樽商科大学FD活動報告書―第12集」は、平成30年度～令和元年度におけるグローバル戦略推進センター教育支援部門のFD活動をまとめたものです。

本学におけるFD活動は、平成12年度より教育課程改善委員会のもとに設置されたFD専門部会を実施主体として活動を続けてきました。その後、本学におけるFD活動を組織的に展開するために、教育課程改善委員会を発展的に解消しその機能を継承する教育開発センターが平成16年4月に設置されました。

平成19年度に教育開発センターの組織が改編され、FD活動は、学部におけるFD活動を「学部教育開発部門」が、大学院現代商学専攻におけるFD活動を「大学院教育開発部門」が、また、ビジネススクール（専門職大学院）である大学院アントレプレナーシップ専攻におけるFD活動は「専門職大学院教育開発部門」が実施主体となり展開されています。

FD活動を通じてより質の高い教育を実現するために、本学教職員、学生、関係者の忌憚のないご意見を教育支援部門にいただければ幸いです。

本報告書の表題「ヘルメスの翼に」は、本学の学章（シンボルマーク）「ヘルメスの翼に一星」から取ったものです。本学ホームページによると、学章について次のように説明されています。

この学章「ヘルメスの翼に一星」は、商業神ヘルメスの翼の上にある一星が、北の大地から英知の光を放つ様子をあらわしたものです。下のリボンには、1910年の創立と Otaru University of Commerce の頭文字が示されています。

ヘルメス(Hermes)は、ギリシャ神話の神の一人で伝令の神、また商業、学術などの神とされています。ローマではマーキュリー(Mercury)と呼ばれています。ヘルメスは2匹の蛇がからみついた翼の杖をもち、伝令の神として世界を飛翔しています。一星は、本学の前身である小樽高等商業学校以来、本学のシンボルとして用いられてきました。「北に一星あり。小なれどその輝光強し。」と謳われた本学の伝統を象徴しています。

FD活動を通じてより質の高い教育が実現でき、それによってヘルメスの翼に輝く一星がより強く光り輝くことを願って、本報告書の表題を「ヘルメスの翼に」としました。

本報告書は「学部教育開発専門部会」、「大学院教育開発専門部会」及び「専門職大学院教育開発専門部会」が中心となって作成したものです。どうぞご覧ください。

令和2年5月

部門長挨拶

教育支援部門長 佐野 博之

本学における本格的なFD活動は2000年に始まり、グローバル戦略推進センター(CGS)教育支援部門の前身である「教育開発センター」の活動を経て現在に至ります。この「ヘルメスの翼」は、2000年度から2003年度までのFD活動をまとめた第1集から始まり、今回で第12集となります。この間に、大学を取り巻く環境と大学教育に対する社会からの要請は大きく変化してきました。とりわけ、人文社会科学系の大学・学部の教育に対し、「仕事の役に立っているのか」という疑念から、以前にも増して厳しい視線が注がれる昨今、開学以来実学を教育理念として掲げる本学は、自らの教育の成果を社会に目に見える形で発信していかなければなりません。

他方で、2018年3月に改訂された認証評価に関する大学評価基準では、教育の「内部質保証」を認証評価の重点項目とすると定められています。大学改革支援・学位授与機構の「大学機関別認証評価 実施大綱」によると、内部質保証とは、「大学が継続的に、自ら教育研究活動等の点検及び評価を行い、その結果を改善につなげることにより、教育研究活動等の質を維持し向上を図ること」とされています。すなわち、教育活動の点検・評価を自ら行うために、大学は学内の教学データを収集・分析し可視化して、教育の改善につなげる体制を構築することが求められているのです。今回、分析結果が詳細に報告されている学部の「授業改善のためのアンケート」は、研究指導などを除くほぼ全ての学部の科目を対象としております。このアンケートは長年にわたり継続的に毎年度実施されているものであり、その分析結果を個々の教員が認識し授業の改善に役立てるという点で、一定の役割を担ってきました。しかしながら、これだけでは今後求められる教育活動のシステマティックな点検・評価そして改善のためには、十分とは言えません。

学内には、本学が全国に先駆けて取り組んできた「アクティブ・ラーニング(AL)」や「課題解決型授業(PBL)」の教育効果に関するデータがあり、個別に効果の分析・可視化が行われています。また、学生の入学時点の特性に関わるデータ(入試関連データ)もあり、入試の改善に役立てられています。今後はこれらのデータも併せて、入学時点の特性や初年次教育と専門教育との関連等を分析し、大学全体として教育改善の方向性を示していく必要があると考えます。

本学は今年2月に、CGS内に「教学IR室」を設置しました。教学に関するデータを収集・分析し可視化するための専門部署であり、専任教員が教育支援部門と連携してこの任務にあたります。今後はIR室による分析結果に基づいて、教育支援部門がFD活動を展開していくことになります。このように、教育支援部門は可能な限り科学的な証拠に基づいた教育改善を行うことでその活動を強化し、学生の学びの支援と将来のキャリア形成に役立つ教育の実現に向けて不断の努力を続けて参ります。

目 次

まえがき

部門長挨拶 教育支援部門長 佐野博之

—学 部 編—

第1章 平成30年度～令和元年度「授業改善のためのアンケート」集計結果
(平成30年度)

1. 調査の概要	9
1.1 調査の目的	
1.2 調査対象	
1.3 調査項目	
2. 授業改善のためのアンケート調査結果	10
2.1 実施状況	
2.2 回収状況	
2.3 評定値	
2.4 自由記述	
3. まとめ	12

(令和元年度)

1. 調査の概要	17
1.1 調査の目的	
1.2 調査対象	
1.3 調査項目	
2. 授業改善のためのアンケート調査結果	18
2.1 実施状況	
2.2 回収状況	
2.3 評定値	
2.4 自由記述	
3. まとめ	20

—大学院商学研究科現代商学専攻編—

第2章 平成30年度～令和元年度 大学院FDアンケート集計結果
(平成30年度)

1. 調査の概要	27
2. 実施方法	27

3. 集計結果	27
[平成 30 年度 大学院生対象]	

(令和元年度)

1. 調査の概要	30
2. 実施方法	30
3. 集計結果	30
[令和元年度 大学院生対象]	
[令和元年度 教員対象]	

－大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻編－

第 3 章 平成 30 年度～令和元年度 「授業評価アンケート」集計結果と分析

(平成 30 年度)

はじめに	40
1. アンケートの概要	41
1. 1 質問項目	
1. 2 アンケートの集計結果	
2. アンケートの分析	46
2. 1 「教員の教授法について」の分析	
3. まとめ	54
3. 1 分析結果のまとめ	
3. 2 今回の研修で確認・議論しておきたい点	

(令和元年度)

はじめに	57
1. アンケートの概要	58
1. 1 質問項目	
1. 2 アンケートの集計結果	
2. アンケートの分析	63
2. 1 「教員の教授法について」の分析	
3. まとめ	70
3. 1 分析結果のまとめ	
3. 2 今回の研修で確認・議論しておきたい点	

－実施報告－

第4章 平成30年度～令和元年度 FD 研修会・シンポジウム等

(平成30年度)

1. 学外で実施する正課授業(研究指導を含む)におけるリスク管理について……………73
2. リスク管理についての事例紹介……………73
 - 2.1 高等教育における実践的アクティブラーニング(PBL)の現状と
ボランティアの単位化について
 - 2.2 小樽商科大学におけるグローバルブリッジ教育プログラムの概要とそのリスク管理について
－事例から学ぶ海外研修でのリスク－

(令和元年度)

1. 「単位の実質化」について……………74
 - 1.1 大学機関別認証評価大学評価基準
 - 1.2 シラバスの充実
2. 学長・理事を対象とした「ジェネリックスキル評価報告会」の開催……………74
3. アクティブラーニングシンポジウム2019……………75

あとがき

平成30年度 CGS 教育支援部門スタッフ一覧

平成30年度 CGS 教育支援部門の活動状況等

令和元年度 CGS 教育支援部門スタッフ一覧

令和元年度 CGS 教育支援部門の活動状況等

—学 部 編—

第1章 平成30年度～令和元年度

「授業改善のためのアンケート」集計結果

平成 30 年度「授業改善のためのアンケート」集計結果（報告）

1. 調査の概要

1.1 調査の目的

本学の授業の改善活動の一環として、履修者による授業改善アンケートを実施する。アンケート調査は、グローバル戦略推進センター教育支援部門学部教育開発専門部会で実施する。アンケート調査の実施後は、学部教育開発専門部会で集計・分析し、本学の FD 活動報告書「ヘルメスの翼に」およびグローバル戦略推進センター教育支援部門の web サイト上で公表する。ただし、集計したデータは授業科目が特定されるような公表は行わず、授業改善以外の目的には使用しない。

1.2 調査対象

以下の科目を除いた「平成 30 年度開講科目」とし、授業の最終回（最終講義）までに調査を実施する。非常勤講師担当の科目は、担当教員へ協力依頼を行い、その同意のうえ実施するものとする。

- (1) 研究指導、卒業論文（夜間主）
- (2) 健康スポーツ（集中実技）
- (3) 教育実習に係る科目
- (4) 日本語科目
- (5) 国際交流科目（グローバル教育科目群を含む）
- (6) 社会連携実践 I～III
- (7) アジア・オセアニア事情、ヨーロッパ事情、アメリカ事情
- (8) 履修者が 10 名以下の科目（希望があれば教員の依頼に基づき実施する。）

1.3 調査項目

表 1 の項目について、学習支援システム（manaba）または、指定の設問用紙にて調査を実施する。履修者には、「このアンケートは、教員が授業改善のための手がかりを得るためのものです。成績評価には関係しませんので、率直な意見や感想を入力してください。回答方法は、5 段階から当てはまる数値を選んでください。また、自由記述欄に入力してください。」と回答依頼をしている。自由記述以外の設問の選択肢は、「1. 全くそう思わない」「2. そう思わない」「3. どちらともいえない」「4. そう思う」「5. とてもそう思う」の 5 件法で測定する。回答結果は、1～5 点に得点化した後、集計を行う。

表 1 授業改善のためのアンケート 質問項目

Q1	シラバスやオリエンテーションから、十分な事前情報が得られた。
Q2	学生の理解を促す工夫（具体例の紹介など）があった。
Q3	教員の説明内容や、作業の指示などが明確であった。
Q4	学習資料（板書、スライド、プリントなど）の提示が適切であった。
Q5	学生に合わせた対応（質問等への対応、進捗調整）が適切であった。
Q6	授業中の私語や遅刻への対処が適切であった。
Q7	授業に適した教室環境（人数、広さ、温度など）であった。
Q8	授業で扱った内容の難易度が適切であった。
Q9	全体的に、この授業に対して満足している。

2. 授業改善のためのアンケート調査結果

2.1 実施状況

本学では、授業改善のためのアンケート調査結果は科目ごとに集計されており、その結果は、授業担当教員へフィードバックされている。ここでは、授業改善のためのアンケート調査結果に関して、本学全体の概要と動向を報告する。

平成 30 年度における全調査対象科目は、458 科目（前期 259 科目、後期 192 科目、集中科目 7 科目、通年科目 0 科目）であり、そのうち、450 科目において実施された（表 2）。平成 29 年度の実施率は 99.5%であり、前回から 1.2 ポイント低下している。

表 2 授業改善案アンケートの対象科目数、実施科目数および実施率

	前期	後期	集中	通年	全体
対象科目数	259	192	7	0	458
実施科目数	253	191	6	0	450
(非対象科目数)	59	51	7	138	255
実施率	97.7%	99.5%	85.7%	-	98.3%

2.2 回収状況

調査が実施された科目について、対象履修者数および回答者数、回収率を表 3 に示す。表 3 では、開講期別に各数値を示している。集中科目は、実施科目数が少ないため、単位認定の学期である前期に含んでいる。

全履修者数は 32,799 名（前年度 32,529 名），うち回答者数は 12,701 名（前年度 12,654 名），全体の回収率は 38.7%（前年度 38.8%）であった。回答者数，回収率はほぼ前年と同じである。開講別の回収率では，前期 42.7%（前年度 42.1%），後期 32.8%（前年度 34.2%）となっており，前期に比べて後期の回収率は約 10 ポイント低くなっている。

表 3 授業改善アンケートの開講期別履修者数・回答者数・回収率

開講期	実施科目数	履修者数	回答者数	回収率
前期	259	19,509	8,337	42.7%
後期	191	13,290	4,364	32.8%
年間計	450	32,799	12,701	38.7%

2.3 評定値

授業改善アンケートの各質問項目に対する評定値（平均値，標準偏差）を表 4 へ示す。いずれの質問項目も後期より前期の方がやや平均値は高くなっている。全体の平均値は，いずれも 4 前後であり，アンケートに回答した学生は概ね満足しているといえる。

表 4 授業改善アンケートの各質問項目に対する平均値および標準偏差

質問項目	前期		後期		全体	
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD
Q1 事前情報	3.98	0.92	4.06	0.89	4.01	0.91
Q2 理解促進	4.01	0.98	4.09	0.92	4.04	0.96
Q3 説明指示	3.99	0.99	4.10	0.92	4.03	0.97
Q4 資料提示	3.97	1.03	4.05	0.96	4.00	1.01
Q5 学生対応	3.96	0.99	4.03	0.95	3.98	0.98
Q6 私語遅刻対応	3.83	1.03	3.93	1.00	3.86	1.02
Q7 教室環境	4.02	0.98	4.04	0.98	4.03	0.98
Q8 授業理解	3.89	1.02	3.94	0.97	3.91	1.00
Q9 授業満足	3.96	1.03	4.04	0.97	3.99	1.01

2.4 自由記述

アンケートに回答した 12,701 名のうち、Q10「望ましい点」は 4,821 件 (38.0%)、Q11「要望」は 3,102 件 (24.4%) の自由記述を得た。「望ましい点」のうち、「特になし」「なし」などを除くと 4,673 件であった。「要望」のうち、「特になし」「なし」「ありがとうございました」といった、要望に関する以外の回答を除くと、2,515 件であった。

自由記述について、KH Coder による共起ネットワーク分析を行った。「望ましい点」について、出現単語の頻度 (上位 150 個) を表 5、共起ネットワーク図を図 1 へ示す。また、「要望」について、出現単語の頻度 (上位 150 個) を表 6、共起ネットワーク図を図 2 へ示す。

望ましい点における出現頻度の最も高い単語は「授業」であった。授業に関する用語として、「先生／内容／理解／面白い／楽しい」といった講義内容に関する意見がみられた。出現頻度の 2 番目に高い単語である「説明」では、「解説／分かる／丁寧／教える」といった、指導に関する意見がみられた。講義内容や指導方法に肯定的な自由記述が多いと言える。その他、「プリント」「スライド」といった資料配布や資料提示に関する意見や、「英語／発音／話す／機会」、「グループ／ワーク／多い」といったアクティブラーニングに関連する意見がみられた。

「要望」においても「授業」が最も出現頻度が高い単語であり、関連する用語として「講義／説明・内容／難しい／時間」といった、講義内容の難易度や時間に関する指摘が多かった。また、「スライド／小さい／板書／字／声」といった、資料提示の方法に関する指摘や、「テスト／レポート／出席」など、学習管理に対する要望も見られた。その他、授業内容に関するものではなく、「教室／暑い／寒い」など設備環境に対する改善要望もあった。

3. まとめ

2018 年度「授業改善のためのアンケート」結果では、次のようなことが明らかとなった。

- ・授業改善アンケートの実施率は対象科目の 98% と高い水準であるが、前年度よりも 1.2 ポイント低下している。
- ・前期よりも後期の回収率は約 10 ポイント低くなっている。回収率を上げる工夫が必要である。
- ・授業改善アンケートの各質問項目に対する平均値は 4 前後であり、回答した学生は概ね満足しているといえる。
- ・自由記述については、時間割や設備など、大学への要望が含まれている回答があった。教員個人へフィードバックされるものであることを学生に周知する必要がある。

表5 「望ましい点」の出現単語（上位150個）

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
授業	1042	実際	91	形式	45
説明	518	復習	90	ビデオ	44
先生	490	機会	87	集中	44
内容	457	聞ける	83	助かる	44
理解	453	優しい	83	確認	43
良い	411	深まる	81	好き	43
分かる	339	難しい	80	答える	43
思う	332	社会	79	歴史	43
講義	330	レポート	78	紹介	42
丁寧	316	課題	78	知れる	42
楽しい	314	話す	78	取る	41
面白い	269	学習	77	少し	41
スライド	236	非常	77	色々	41
プリント	232	練習	77	合わせる	40
学ぶ	209	書く	76	終わる	40
学生	208	発音	76	動画	40
多い	200	出席	75	読む	40
見る	192	詳しい	71	講師	39
英語	191	教科書	68	細かい	39
教える	178	行う	68	私語	39
毎回	176	基礎	66	フランス語	38
解説	171	配布	64	今	38
話	167	意見	63	事例	38
自分	165	対応	63	大変	37
学べる	164	用いる	63	普段	37
テスト	162	ありがとう	58	ペース	36
問題	146	お話	58	ポイント	35
人	143	映像	58	出す	34
聞く	135	深める	58	前	34
知る	126	身	57	大学	34
興味	124	適切	57	範囲	34
例	123	触れる	56	用意	34
具体	122	興味深い	55	コミュニケーション	33
知識	121	工夫	55	環境	33
資料	120	文化	55	苦手	33
出来る	120	実践	53	高校	33
生徒	120	進める	52	受講	33
勉強	120	他	51	図	33
受ける	117	持つ	50	早い	33
質問	114	深い	50	違う	32
時間	113	得る	50	教室	32
使う	111	文法	50	個人	32
感じる	108	参加	48	進度	32
レジュメ	107	試験	48	中国語	32
グループ	105	出る	48	扱う	31
考える	103	情報	47	会話	31
ワーク	100	進む	47	企業	31
たくさん	99	発表	47	生活	31
板書	95	身近	46	全体	31
様々	95	分野	46	促す	31

表6 「要望」の出現単語（上位150個）

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
授業	721	英語	65	読む	40
思う	601	私語	65	マイク	39
もう少し	389	注意	65	狭い	39
内容	300	履修	65	質問	39
多い	295	見える	64	日本語	39
テスト	274	毎回	64	対応	38
講義	273	黒板	63	情報	37
教室	247	出る	63	レベル	36
スライド	246	manaba	61	意見	36
時間	238	資料	60	進度	36
先生	224	出す	60	成績	36
説明	210	提出	59	スクリーン	35
人	203	行う	58	大学	35
学生	199	部分	58	スピード	34
プリント	190	教える	55	解答	34
出席	180	範囲	55	指示	34
少し	180	広い	54	進める	34
書く	161	難易	54	基礎	33
見る	156	評価	54	後半	33
難しい	150	量	54	受講	33
感じる	143	扱う	53	答え	33
理解	139	配布	53	アップ	32
問題	136	勉強	53	違う	32
板書	134	寒い	52	減らす	32
小さい	129	高い	52	必要	32
レポート	128	暑い	50	ポイント	31
言う	128	全く	50	科目	31
生徒	111	聞こえる	49	単語	31
良い	108	進む	48	発言	31
課題	106	後ろ	46	ワーク	30
声	106	最後	46	開講	30
大きい	102	最初	46	作る	30
早い	97	考える	45	多々	30
分かる	93	集中	45	知識	30
字	90	人数	45	特に	30
聞く	87	席	45	事前	29
改善	83	大変	45	他	29
レジュメ	80	終わる	44	無い	29
教科書	80	増やす	44	残念	28
取る	80	悪い	43	単位	28
話す	78	非常	43	遅い	28
使う	77	練習	43	配る	28
文字	76	学ぶ	42	発表	28
自分	73	入る	42	温度	27
話	73	確認	41	学習	27
グループ	72	少ない	41	期末	27
試験	69	欲しい	41	穴埋め	27
受ける	69	意味	40	仕方	27
前	69	厳しい	40	上げる	27
解説	67	出来る	40	発音	27

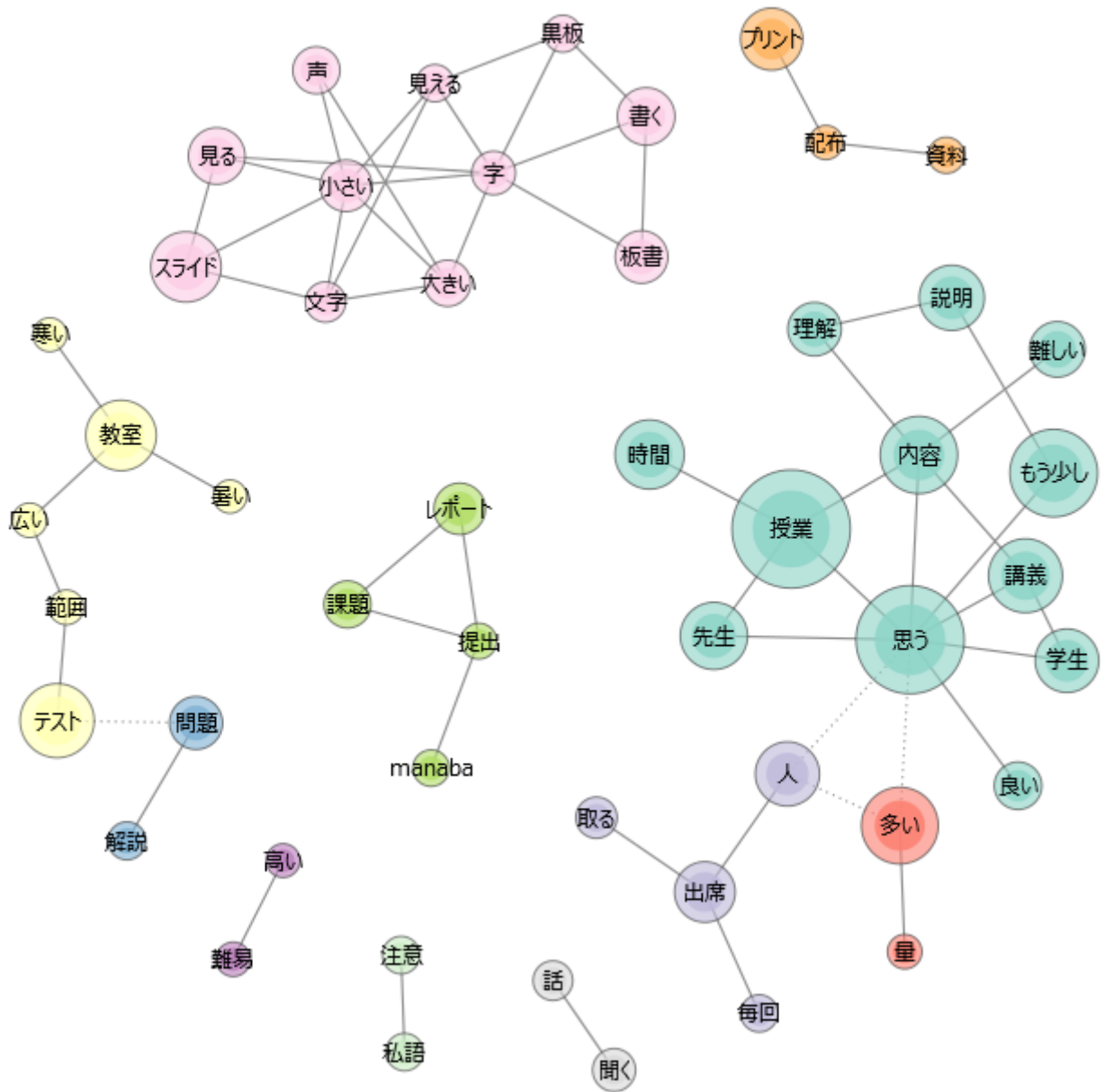


図2 「要望」の共起ネットワーク図

令和元年度「授業改善のためのアンケート」集計結果（報告）

1. 調査の概要

1.1 調査の目的

本学の授業の改善活動の一環として、履修者による授業改善アンケートを実施する。アンケート調査は、グローバル戦略推進センター教育支援部門学部教育開発専門部会で実施する。アンケート調査の実施後は、学部教育開発専門部会で集計・分析し、本学のFD活動報告書「ヘルメスの翼に」およびグローバル戦略推進センター教育支援部門のwebサイト上で公表する。ただし、集計したデータは授業科目が特定されるような公表は行わず、授業改善以外の目的には使用しない。

1.2 調査対象

以下の科目を除いた「令和元年度開講科目」とし、授業の最終回（最終講義）までに調査を実施する。非常勤講師担当の科目は、担当教員へ協力依頼を行い、その同意のうえ実施するものとする。

- (1) 研究指導、卒業論文（夜間主）
- (2) 健康スポーツ（集中実技）
- (3) 教育実習に係る科目
- (4) 日本語科目
- (5) 国際交流科目（グローバル教育科目群を含む）
- (6) 社会連携実践Ⅰ～Ⅲ
- (7) アジア・オセアニア事情、ヨーロッパ事情、アメリカ事情
- (8) 履修者が10名以下の科目（希望があれば教員の依頼に基づき実施する。）

1.3 調査項目

表1の項目について、学習支援システム（manaba）または、指定の設問用紙にて調査を実施する。履修者には、「このアンケートは、教員が授業改善のための手がかりを得るためのものです。成績評価には関係しませんので、率直な意見や感想を入力してください。回答方法は、5段階から当てはまる数値を選んでください。また、自由記述欄に入力してください。」と回答依頼をしている。自由記述以外の設問の選択肢は、「1. 全くそう思わない」「2. そう思わない」「3. どちらともいえない」「4. そう思う」「5. とてもそう思う」の5件法で測定する。回答結果は、1～5点に得点化した後、集計を行う。

表1 授業改善のためのアンケート 質問項目

Q1	シラバスやオリエンテーションから、十分な事前情報が得られた。
Q2	学生の理解を促す工夫（具体例の紹介など）があった。
Q3	教員の説明内容や、作業の指示などが明確であった。
Q4	学習資料（板書、スライド、プリントなど）の提示が適切であった。
Q5	学生に合わせた対応（質問等への対応、進捗調整）が適切であった。
Q6	授業中の私語や遅刻への対処が適切であった。
Q7	授業に適した教室環境（人数、広さ、温度など）であった。
Q8	授業で扱った内容の難易度が適切であった。
Q9	全体的に、この授業に対して満足している。

2. 授業改善のためのアンケート調査結果

2.1 実施状況

本学では、授業改善のためのアンケート調査結果は科目ごとに集計されており、その結果は、授業担当教員へフィードバックされている。ここでは、授業改善のためのアンケート調査結果に関して、本学全体の概要と動向を報告する。

令和元年度における全調査対象科目は 451 科目（前期 252 科目、後期 189 科目、集中科目 10 科目、通年科目 0 科目）であり、そのうち、447 科目において実施された（表 2）。平成 30 年度の実施率は 98.3% であり、前回から 0.8 ポイント上昇している。

表 2 授業改善案アンケートの対象科目数、実施科目数および実施率

	前期	後期	集中	通年	全体
対象科目数	252	189	10		451
実施科目数	252	186	9		447
(非対象科目数)	52	41	9	129	231
実施率	100.0%	98.4%	90.0%	-	99.1%

2.2 回収状況

調査が実施された科目について、対象履修者数および回答者数、回収率を表 3 に示す。表 3 では、開講期別に各数値を示している。集中科目は、実施科目数が少ないため、単位認定の学期である前期に含んでいる。

全履修者数は 32,055 名（前年度 32,799 名），うち回答者数は 11,957 名（前年度 12,701 名），全体の回収率は 37.3%（前年度 38.7%）であった。開講別の回収率では，前期 38.9%（前年度 42.7%），後期 35.0%（前年度 32.8%）となっている。前年度に比べて，前期の回収率は 3.8 ポイント低下，後期は 2.2 ポイント上昇，全体では 1.4 ポイント低下している。

表 3 授業改善アンケートの開講期別履修者数・回答者数・回収率

開講期	実施科目数	履修者数	回答者数	回収率
前期	261	19,042	7,405	38.9%
後期	186	13,013	4,552	35.0%
年間計	447	32,055	11,957	37.3%

2.3 評定値

授業改善アンケートの各質問項目に対する評定値（平均値，標準偏差）を表 4 へ示す。いずれの質問項目も後期より前期の方がやや平均値は高くなっている。全体の平均値は，いずれも 4 以上であり，アンケートに回答した学生は概ね満足しているといえる。

表 4 授業改善アンケートの各質問項目に対する平均値および標準偏差

質問項目	前期		後期		全体	
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD
Q1 事前情報	4.09	0.87	4.18	0.87	4.12	0.87
Q2 理解促進	4.14	0.90	4.18	0.92	4.16	0.91
Q3 説明指示	4.12	0.92	4.17	0.92	4.14	0.92
Q4 資料提示	4.12	0.92	4.16	0.93	4.14	0.92
Q5 学生対応	4.07	0.94	4.13	0.94	4.09	0.94
Q6 私語遅刻対応	3.98	0.97	4.04	0.98	4.00	0.97
Q7 教室環境	4.04	0.99	4.09	0.98	4.06	0.99
Q8 授業理解	4.01	0.95	4.03	0.99	4.02	0.97
Q9 授業満足	4.10	0.96	4.11	0.98	4.10	0.97

2.4 自由記述

アンケートに回答した 11,957 名のうち、Q10「望ましい点」は 4,672 件 (39.1%)、Q11「要望」は 2,788 件 (23.3%) の自由記述を得た。「望ましい点」のうち、「特になし」「なし」などを除くと 4,556 件 (前年度 4,673 件) であった。「要望」のうち、「特になし」「なし」「ありがとうございました」といった、要望に関する以外の回答を除くと、2,086 件 (前年度 2,515 件) であった。

自由記述について、KH Coder による共起ネットワーク分析を行った。「望ましい点」について、出現単語の頻度 (上位 150 個) を表 5、共起ネットワーク図を図 1 へ示す。また、「要望」について、出現単語の頻度 (上位 150 個) を表 6、共起ネットワーク図を図 2 へ示す。

望ましい点における出現頻度の最も高い単語は「授業」であった。授業に関する用語として、「先生／内容-興味深い／理解-深まる／面白い／良い」といった講義内容に関する意見がみられた。出現頻度の 2 番目に高い単語である「説明」では、「丁寧-教える／丁寧-解説／分かる」といった、指導に関する意見がみられた。講義内容や指導方法に肯定的な自由記述が多いと言える。その他、「スライド／板書」といった資料配布や資料提示に関する意見や、「英語-楽しい／話す／機会」、「テスト／復習」「学ぶ／出来る」「発音-練習／問題／多い」といった学習方法に関連する意見がみられた。

「要望」においても「授業」が最も出現頻度が高い単語であり、関連する用語として「内容-難しい／時間-もう少し」といった、講義の難易度や時間に関する指摘が多かった。「スライド-manaba-資料／字-小さい／板書」といった、資料提示の方法に関する指摘や、「テスト-範囲／問題／プリント」「成績-評価／レポート／課題」など、成績評価に関する要望も見られた。その他、授業内容に関するものではなく、「教室／暑い／寒い」「人-多い／履修-人数-多い」など設備環境や教室環境に対する改善要望もあった。

3. まとめ

2019 年度「授業改善のためのアンケート」結果では、次のようなことが明らかとなった。

- ・授業改善アンケートの実施率は対象科目の 99% と高い水準であり、前期科目の実施率は 100% であった。全体の実施率は前年度から 0.8 ポイント上昇している。
- ・全体の回収率は、前年度より 1.4 ポイント低下し、37.3% であった。後期の回収率は前年度より上昇したものの、前期では 3.8 ポイントと大きく低下している。
- ・授業改善アンケートの各質問項目に対する平均値は 4 以上であり、回答した学生は概ね満足しているといえる。
- ・自由記述については、アンケートに回答した約 12,000 名のうち、要望に関して約 2,000 件の記述があった。前年度より 500 件程度減少しており、今後も要望の件数を減らすよう対応が必要である。

表5 「望ましい点」の出現単語（上位150個）

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
授業	995	ワーク	92	助かる	45
説明	570	資料	91	分野	45
先生	514	出席	88	経済	44
内容	408	復習	88	適切	43
理解	389	話す	86	細かい	41
楽しい	365	非常	83	答える	41
良い	347	ありがとう	82	普段	41
丁寧	337	実際	82	リスニング	40
思う	335	レポート	80	進める	40
分かる	295	社会	79	役立つ	40
英語	276	学習	78	参考	39
面白い	271	詳しい	75	会話	38
講義	262	難しい	72	動画	38
多い	227	基礎	71	形式	37
自分	199	興味深い	70	小樽	37
問題	189	お話	69	少し	37
話	180	板書	68	紹介	36
プリント	179	発音	66	情報	36
学べる	176	行う	63	生活	36
テスト	174	触れる	63	前	36
見る	173	深まる	62	全体	36
スライド	172	優しい	62	ディスカッション	35
解説	167	MANABA	59	経験	35
知る	163	意見	59	講師	35
人	154	持つ	59	高校	35
学生	151	対応	59	知れる	35
聞く	151	得る	58	大変	34
学ぶ	144	参加	57	中国語	34
毎回	144	書く	55	読む	34
機会	135	身	54	必要	34
教える	134	コミュニケーション	53	部分	34
出来る	134	身近	53	明確	34
知識	125	ジェンダー	52	フランス語	33
例	122	教科書	52	積極	33
勉強	121	文法	52	特に	33
質問	120	用いる	52	学科	32
生徒	114	課題	51	言う	32
受ける	113	深い	51	入る	32
聞ける	112	扱う	50	回答	31
使う	111	今	50	貴重	31
考える	110	出る	50	実験	31
興味	106	深める	50	配布	31
具体	106	実践	49	評価	31
様々	105	取る	48	I	30
グループ	103	文化	48	映像	30
練習	99	確認	47	演習	30
たくさん	98	他	47	工夫	30
時間	98	Respon	46	受講	30
感じる	96	色々	46	集中	30
レジュメ	94	映画	45	大学	30

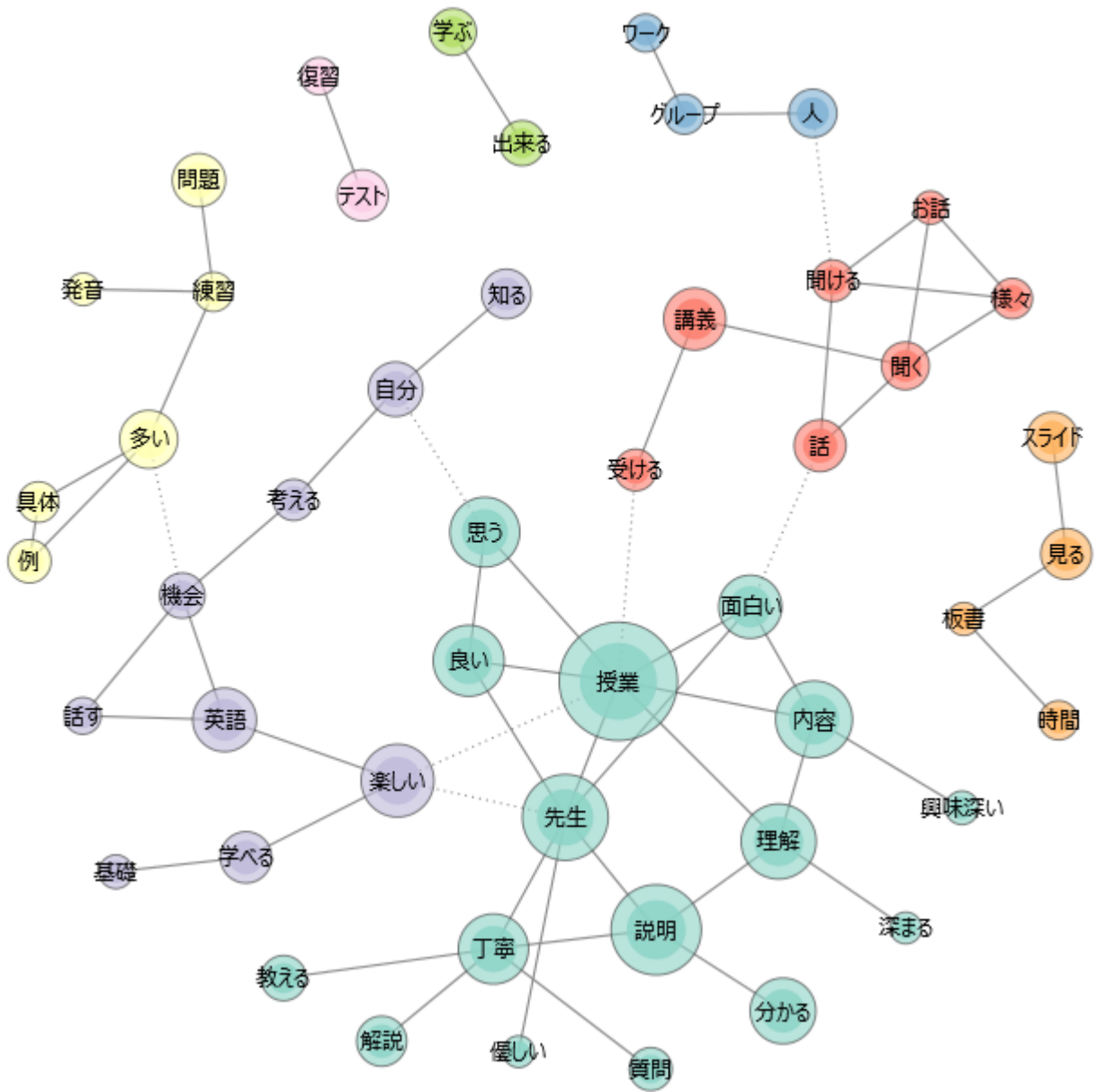


図1 「望ましい点」の共起ネットワーク

表6 「要望」の出現単語（上位150個）

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
授業	618	教科書	55	レベル	29
思う	555	提出	55	解答	29
もう少し	290	行う	54	確認	29
教室	268	考える	52	狭い	29
多い	236	大きい	52	後半	29
内容	223	RESPON	51	講師	29
テスト	221	質問	50	私語	29
人	208	小さい	49	受講	29
時間	195	遅刻	48	集中	29
先生	186	成績	46	進める	29
講義	164	前	46	対応	29
出席	164	必要	46	練習	29
感じる	151	欲しい	46	マイク	28
スライド	148	出す	45	扱う	28
説明	147	暑い	45	印刷	28
難しい	143	全く	45	進む	28
少し	138	黒板	44	読む	28
学生	130	資料	43	学習	27
問題	130	席	43	教材	27
理解	104	字	40	仕方	27
言う	103	増やす	40	点数	27
書く	103	範囲	40	特に	27
MANABA	101	難易	39	復習	27
レポート	97	部分	39	見える	26
課題	90	勉強	39	出来る	26
生徒	89	悪い	38	情報	26
見る	83	少ない	38	長い	26
プリント	81	違う	37	発言	26
早い	79	終わる	37	嬉しい	25
分かる	78	解説	36	工夫	25
良い	78	厳しい	36	場合	25
取る	77	高い	36	回答	24
レジュメ	75	入る	36	多々	24
改善	75	日本語	35	知る	24
自分	75	広い	34	文字	24
聞く	72	試験	34	スピード	23
板書	70	声	34	座る	23
グループ	69	最後	33	助かる	23
使う	68	最初	33	他	23
話	68	アップ	32	単位	23
受ける	67	意味	32	遅い	23
評価	67	大変	32	途中	23
毎回	66	来る	32	配る	23
寒い	64	ワーク	31	プレゼン	22
出る	61	指示	31	学ぶ	22
英語	60	変える	31	環境	22
人数	60	ノート	30	欠席	22
話す	60	単語	30	作る	22
履修	59	聞き取る	30	宿題	22
教える	56	方法	30	詳しい	22

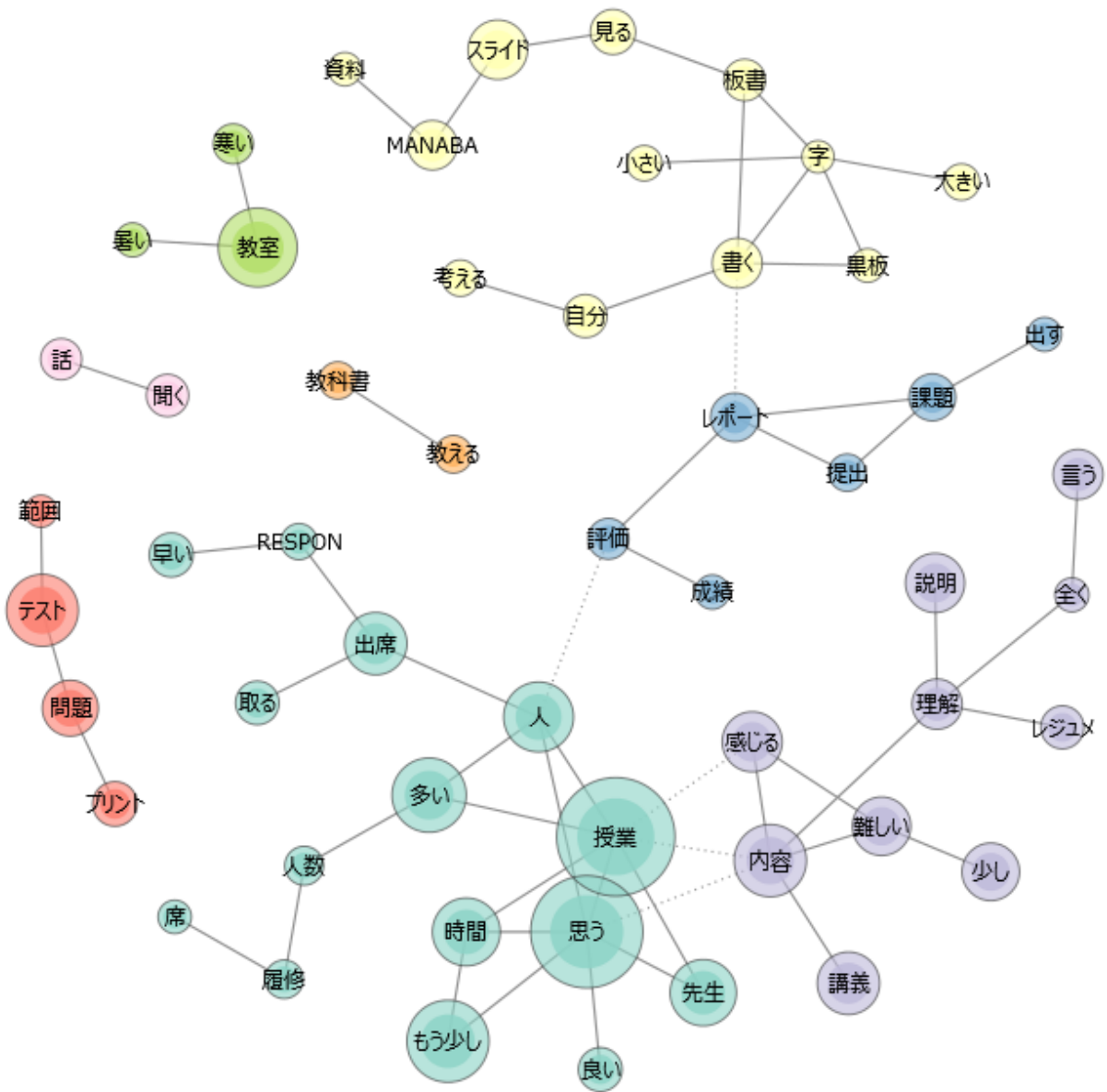


図2 「要望」の共起ネットワーク図

—大学院商学研究科現代商学専攻編—

第2章 平成30年度～令和元年度

大学院FDアンケート集計結果

平成 30 年度 大学院 FD アンケート集計結果（報告）

1. 調査の概要

大学院現代商学専攻博士前期・後期課程の教育課程（カリキュラム）及び教育支援体制に関して幅広く教員・学生から意見等を聴取し、今後の大学院指導に資することを目的として実施する。

対象者は、（１）現代商学専攻博士前期・後期課程に在籍する学生、（２）現代商学専攻科目担当教員及び大学院現代商学専攻研究指導担当教員である。

2. 実施方法

対象者にメールで依頼し、WEB アンケートシステムから回答してもらう。または、アンケート用紙をメールで送付・メールで提出するか、印刷した回答票に記入して学生センター窓口へ提出する。

3. 集計結果

次頁以降に、集計結果を示す。いずれのアンケート調査も、数量調査（5件法）と自由記述から構成されている。数量調査に関しては、数値が大きいほど高評価を示している。なお、平成 30 年度教員対象は実施されていない。

大学院 FD アンケート(大学院生対象):集計結果

本調査では、博士前期課程・後期課程の教育課程(カリキュラム)及び教育体制に関して、幅広く学生の意見・希望を聴取し、今後の大学院指導の参考にすることを目的としています。成績評価等には関係しませんので、率直な意見をご記入ください。

【回答方法】以下の該当する番号等に「○」をつけてください。

1 : 全くそう思わない, 2 : あまりそう思わない, 3 : どちらともいえない, 4 : ややそう思う, 5 : 強くそう思う

対象者数 : 25 名 回答数 : 22 回収率 : 88%

1) あなた自身にとって、興味深い科目が開講されている。	4.09
2) 幅広い内容にわたって、科目を選択することができる。	3.59
3) 履修科目を決定する際、シラバスが参考になった。	4.50
4) 大学院に期待していたとおりの知識や技能を獲得できた。	4.00
5) 修了に必要な「講義科目」の単位数は適切である。	4.05

(学習・研究活動に関する意見等を記入してください) : 自由記述

○開講年次や年度による非開講などを無くして頂きたい。それによって単位の取り方も変わるので、シラバスにある程度の言及をしてもらいたい。

例えば、2年次の開講授業であれば「1年目で○○の知識を得たうえで履修するように」などの2年次向けである理由であったり、非開講の場合は「翌年度開講予定」など補足を入れて欲しい。

研究者志望の場合は、研究上どうしてもその科目を履修したい場合があるので、現行のままであればそういった配慮があると助かります。

○1) 履修科目数(10単位・5教科)が多い割には博士前期課程に比べ履修できる科目が少ない(限られている)のが残念でした。

2) これまで履修した授業は非常にアカデミックであり学生に合わせて細かく丁寧にご指導頂きました。

3) 大学として学会参加などへの資金的援助もして頂き非常にありがたく思っています。

4) 社会人学生だけに研究に割ける時間が無いのが自分自身もどかしく思っています。

5) 主査・副査の先生達には、指導のために多くの時間を割いて頂き感謝しております。

6) 私はアントレ出身なので、授業や自習がサテライトでできるのがありがたいです。

7) 一方で、修士課程の学生との接点が少ないのが少々残念でもあります。

○講義の中で教授と議論できる環境があった事がよかった。講義を行ってくれた教授の方々に感謝したい。

○計量経済学関連の科目があればもっといいと思います。

○他の大学の院生と交流できたら、いいと思います。

○修了に必要な科目が多いわりに開講科目が少なく授業時間が同じコマに重複していたりして履修できなかったりする 単位互換をゆるめにするなど科目クリアしやすくなればいいと思う

6) 指導教員から、十分な指導（研究指導・論文指導など）を受けている。	4.50
7) 研究に必要な図書資料（書籍・論文）が、十分に整備されている。	3.82
8) 研究に必要な電子ジャーナル・データベースが、十分に整備されている。	3.73
9) 大学院生の共同研究室は、研究活動に適した環境である。	3.50
10) 学内設備（PCなど）の利用環境が整っている。	3.73

(図書資料・電子ジャーナル等や設備に関する意見等を記入してください)：自由記述

○前述しましたがサテライト利用が多く共同研究室は一度も利用していません。

図書館での論文の請求などのやり方がイマイチわかりません（有料・無料含め）。

本校図書館とサテライト図書室の利用互換性を高めて欲しい（パソコンでの蔵書検索や書籍の貸し借り含む）。書籍については、自宅近くにある札幌大学、北海学園大学、北海商科大学の図書館も利用しています。

○自習室のパソコンやプリンターを自由に利用できたことが日々の研究活動に役立った。

○共同研究室はドクターとマスターで分けてほしい。男女でわけなくていい、ドクター部屋必要

11) 進路（就職活動を含む）や経済支援など、学生生活全般について相談できる環境がある。	3.50
--	------

12) 学内の講義や研究指導以外に、研究会や勉強会に参加したことがある。	はい 59% いいえ 41%
--------------------------------------	----------------

13) 現在の大学院における学習活動に満足している。	3.86
----------------------------	------

(学生生活全般に関する意見等を記入してください)：自由記述

○学生生活について相談する場所がどこなのかを知らないです。手続きについては教務課大学院係は分かりますが、それ以外の相談となるとわかりません。

また、学内の講義以外については、どのように参加すればよいかわからないので、その点の指導もあると助かります。学会の所属でも、正規会員になるためには教員方の推薦が必要であったり、自身の研究を進めていく上でどこの学会に所属したらよいかのアドバイスがあると嬉しいです。

一つ一つの講義には満足しています。ただ、大学全体で見ると、教員に任せきっている面が多々あり、それを総括して分かっている人が少ないように思えます。

○これも前述しましたが、（自分自身の問題ですが）社会人学生のために学習時間を作り出すのに苦労しています。授業時間などは学生の都合に合わせて柔軟に調整して頂けるので本当に感謝しています。

○手学生生活の関する手続きや書類の提出をできるだけ電子化してほしい。

○設備やシステムが使いにくい。大学に行っても部屋が使えない。大学から離れて勉強するシステム使えない

(その他、意見等がありましたら記入してください)：自由記述

○小さな大学だからこその細かな動きができれば、大学院でもあれば嬉しいです。

○まだ始まったばかりではありますが、博士論文執筆に向けて充実した日々を過ごしています。

先生達からも博士後期課程に在籍する学生としての学術的な知識や理論を始め、研究者に必要な多くのことを学ばせて頂いています。博士号取得に向けて一步一步頑張りたいと思います。

○他大学から来たので自分の理解が足りないのかも知れないが、他の大学院は、院生用のコピーカードが使えたり、院生に大学のメールアドレスの割当てがあったり、文献入手も院生へのルールがありました。大学の一員として、研究するよう支援されていた気がします。今は、研究する環境として馴染めません、

令和元年度 大学院 FD アンケート集計結果（報告）

1. 調査の概要

大学院現代商学専攻博士前期・後期課程の教育課程（カリキュラム）及び教育支援体制に関して幅広く教員・学生から意見等を聴取し、今後の大学院指導に資することを目的として実施する。

対象者は、（１）現代商学専攻博士前期・後期課程に在籍する学生、（２）現代商学専攻科目担当教員及び大学院現代商学専攻研究指導担当教員である。

2. 実施方法

対象者にメールで依頼し、WEB アンケートシステムから回答してもらう。または、アンケート用紙をメールで送付・メールで提出するか、印刷した回答票に記入して学生センター窓口へ提出する。

3. 集計結果

次頁以降に、集計結果を示す。いずれのアンケート調査も、数量調査（５件法）と自由記述から構成されている。数量調査に関しては、数値が大きいほど高評価を示している。

大学院 FD アンケート(大学院生対象):集計結果

本調査では、博士前期課程・後期課程の教育課程(カリキュラム)及び教育体制に関して、幅広く学生の意見・希望を聴取し、今後の大学院指導の参考にすることを目的としています。成績評価等には関係しませんので、率直な意見をご記入ください。

【回答方法】以下の該当する番号等に「○」をつけてください。

1 : 全くそう思わない, 2 : あまりそう思わない, 3 : どちらともいえない, 4 : ややそう思う, 5 : 強くそう思う

対象者数 : 23 名 回答者数 : 13 名 回収率 : 56.5%

1) あなた自身にとって、興味深い科目が開講されている。	3.62
2) 幅広い内容にわたって、科目を選択することができる。	3.38
3) 履修科目を決定する際、シラバスが参考になった。	4.00
4) 大学院に期待していたとおりの知識や技能を獲得できた。	3.54
5) 修了に必要な「講義科目」の単位数は適切である。	4.00

(学習・研究活動に関する意見等を記入してください) : 自由記述

○「修士論文ができれば良い」というスタンスではなく、「質の高い論文を作る」というスタンスで指導が欲しい。特に博士後期進学類向けの授業や指導方法を用意してほしい。統計手法の学習であったり、論文作成にあたっての新規性の見つけ方や作り方などのレクチャー(教員の考え方)などを取り扱ってほしい。先行研究を調べるにあたっての視点やメソロジーを持ち合わせていないと、理解度が下がる、または理解までに時間がかかってしまう。博士前期1年から上記のような授業があれば、より深い論文作成に繋がれると思います。

○後期課程博士課程の学生に対する研究費および研究旅費の支給を厚くしていただきたい。

○講義科目は広い見地を持たせることに重要かもしれない。しかし、論文執筆を主目的と考えると、カリキュラムで研究指導に重点を置いたほうが良いと考えます。

○学会費や学会参加のための旅費などの援助があれば良いと思う

6) 指導教員から、十分な指導(研究指導・論文指導など)を受けている。	4.00
7) 研究に必要な図書資料(書籍・論文)が、十分に整備されている。	3.00
8) 研究に必要な電子ジャーナル・データベースが、十分に整備されている。	3.00
9) 大学院生の共同研究室は、研究活動に適した環境である。	2.92
10) 学内設備(PCなど)の利用環境が整っている。	2.85

(図書資料・電子ジャーナル等や設備に関する意見等を記入してください)：自由記述

- 研究にあたっての蔵書量は少ない。図書リクエストを頻繁にできる環境だと嬉しい。協同研究室は他教室の講義が聞こえてくるので、良い環境とは言えない。図書館3階の方がまだ集中できる環境だと個人的には思う。研究室に1台のPCは少なく、理想は1人1台のPC。現状では、自宅で研究する方が必要なものが揃っているので、研究室に行く必要がない。PC等の設備でなくても、気軽に議論できる環境作りがあればまだ良い。本棚で各人が仕切られていて、気軽に議論できる環境ではない。
- 図書館から希望図書の募集が1年に1度あり、有効に使わせていただいています。
- より多くの図書資料・電子ジャーナルを用意して頂けると嬉しいです。小樽商大に無い為に、北海道大学まで足を運ばなければいけないことが多々ありました。
- 統計分析ソフトウェア不足。AMOSもPCに入れてほしい
- 最初から大学院研究室aとbのプリンタ?が壊れた
- 研究テーマが書籍になる前の最新の論文を必要としていることから、自宅からリモート接続で、契約している海外の学会誌等にアクセスできると都合がよいと考えます。

1 1) 進路(就職活動を含む)や経済支援など、学生生活全般について相談できる環境がある。 3.31

1 2) 学内の講義や研究指導以外に、研究会や勉強会に参加したことがある。 はい62% いいえ38%

1 3) 現在の大学院における学習活動に満足している。 3.54

(学生生活全般に関する意見等を記入してください)：自由記述

- 進路で言えば、博士後期に進むほどの魅力がない。より活発的な議論ができる場所が欲しい。院生同士しかり、学生・教員同士しかり。大学の教育面で言えば、学生の能力向上が目的であり、それに妥協することのない指導や授業の開講などを希望します。
- 北大の院生時代に比べると研究会や学会に参加する機会が減りました。学会参加のための準備時間と費用捻出に苦慮しています。
- 仕事と学業の両立で時間の制約の中で研究を進めなければならない状況から、5年の在籍期間の期限では研究を組み立てるのは難しい。

(その他、意見等がありましたら記入してください)：自由記述

- 単位取得退学後の課程博士取得の規定を検討していただきたい。論文博士を認めていない現状では仕事と兼務で時間に追われる中で学位取得が社会人にとってはハードルが高いと感じます。手だてを考えていただきたいと思います。
- 5年で単位取得退学になったのちに、数年の猶予を与えていただき、課程博士を取得できる制度を構築いただきたい。

大学院 FD アンケート(教員対象):集計結果

本調査では、大学院における教育方法の改善を図る上で、アンケートにより教員の意見・感想を収集し、今後の学生指導体制やFD活動のあり方を検討することを目的としています。ご協力いただけますよう、お願いいたします。

【回答方法】 1:まったくそう思わない, 2:あまりそう思わない, 3:どちらともいえない,
4:ややそう思う, 5:強くそう思う

対象者数 : 78 名 回答者数 : 34 名 回収率 : 43.6%

1) 成績評価に関して、コース内で共通した基準の必要性を感じる。	2.50
2) 成績評価に関して、コースを超えて共通した基準の必要性を感じる	2.09
3) 院生に対して、より幅広い研究交流活動を期待している。	3.74

(研究指導や論文指導に関するご意見を記入してください) : 自由記述

- 指導教員になった際の指導の裁量を増やして欲しい
- 学生の能力は非常に低いです。より良い生徒はより良い結果を生み出します。これは成績のやりかたを変更するよりも大きな影響があります。
- コースの学生が少なく、学生同士の切磋琢磨の機会がないのが学生の成長を妨げているように思う。
- 修士の2年になっても、研究の仕方が分かっていない学生が多い。修士の2年になっても、論文のフォーマット(引用文献などを含めて)が分かっていない学生がいる。修士1年目に何らかの全体コースが必要ではないだろうか?
- 理工系の場合は、必要単位数をなるべく減らして、研究の時間を作る方が良いが、本学の場合は、単位数が多いと感じる。そのため、1年目はあまり研究の時間をとれず、深まらない危険性がある。
- 進路によって要求されるレベルが異なることもあります。そうすると基準が進路によって異なることにもなりえ、自然と成績評価も異なってきます。共通した基準の必要性は感じません。
- しばらく大学院生の研究指導を担当していませんので、具体的な課題や要改善点などについては思い当たりません。
- 指導教員の指定は幾多の問題があります。学生の希望分野と教員の研究分野の相違、学生の希望が聞き入れてもらえない、学生の引き受けを避ける傾向があるなど。さらに入学後学生の日本語力を高める教育の問題もあります。これらの問題について議論して制度設定する必要がある。
- 法人統合に向けてローカルな基準での評価ができなくなっている。今後は入学生の確保の観点を含め抜本的な改革が必要。特に博士課程後期の指導内容の開示が必須である。

4) 学内において、研究指導に必要な資料が整備されている。 2.47

5) 図書資料(書籍・論文)の収集に関する学生の知識は十分である。 2.18

6) 学生の研究活動に必要な環境が整備されている。 2.62

(図書資料・電子ジャーナル等や設備に関するご意見を記入してください)：自由記述

- 指導に必要な図書の長期貸出を認めてほしい。指導教員になった後の TA や RA の枠を増やしてほしい。
- 電子ジャーナルの充実が望まれる。
- 図書については、新しい学術書や原書、それから学生が最初に学ぶための最近の概説書が充実するとよい。
電子ジャーナルは、経済と商学はエブスコなどがあり十分と見うけられる。一方でそれ以外の学科（社会情報、英語教育、法学）の修士コースも存在しているので、それなりに考慮して欲しい。
- 資料・電子ジャーナルが特定分野に偏りすぎています。つまり声の大きい学科の資料・電子ジャーナルが多いということです。
- 中国語学習ではなく中国語の言語学の文献がない
- 分野によるのでしょうか。経済学関係、商学関係の環境については承知していません。私の専門分野は（当然ですが）十分な環境とは言えません。
- 図書等の整備については、本学のみで十分に揃えることは費用面で難しいことは明らかなので、北大図書館との連携（費用の一部負担を含む）など、ソフトなやり方で対応すべきと思う。特に、電子ジャーナルの契約に関しては、院生の研究のためとの理由を考慮することは、院生の在席状況からして結果的には特定の学問分野を重視することになり、学内での資金配分に偏りが生じるので反対である。
- ない資料が多いが小規模大学では仕方ないと思う。個人的には必要な資料は研究者ネットワークを介して収集しているので、全く問題ない。
- EBSCOのデータベースではフルテキストアクセスができるジャーナルや論文の数は総合大学と比べて少ない。予算の問題なので仕方ないと思いますが教員にとっても院生にとっても総合大学と比べて研究しにくい環境です。
- 院生レベルで言えば充実しているが、院生指導のための資料は不足している。特に今後必要とされる理科学分野を対象とした社会科学系関係雑誌などの充実が必要である。

7) 授業方法の改善のため、組織的な取り組みが必要である。 2.74

(本学大学院で行うべき FD 活動について、ご意見を記入してください。)：自由記述

- 大学院に必要な基礎科目の習得を徹底させてほしい
- やらなくていいです。問題は先生や教え方じゃなくて、もっといい生徒が必要と思います。
- 修士論文で求めるべきレベルについて、学科をまたがって、確認しあうこと。修士論文のスケジュールについて、学科をまたがって、確認しあうこと。
- 院生は少人数ですので、担当教員が対応できる範囲内で、できるだけ院生の希望に沿った授業となるように努力すべきです。
- 大学院の規模が小さいので、効率性という観点で学部と独立に実施するのが良いかどうかについては一度議論した方が良く考えます。
- 国内外の授業方法の専門家や優れた授業方法で有名な大学の教員を呼んで FD ワークショップを行ってほしい。
- 院指導では実質的なことは行われていない感がある。

(その他、ご意見がありましたら、記入してください)：自由記述

- 授業よりも先に、大学院生が研究を行うための書籍、論文などの環境整備（オンライン有料版を購入するための補助でも良いです）、学会発表するための参加費、交通費などの補助などを行う等を優先して改善して欲しいです。
- 無料のオンライン授業、オンラインマテリアルが充実している昨今、情報を伝達するだけの大学教育の価値はほぼゼロである。大学が教育機関として意義があるとするれば、専門の学術領域の最先端の研究者、最新研究に精通しているキュレーター、基礎的な学問のトレーニングの指導に長けたコーチを担える人材を束ね、そうした人材と学生とのインタラクションの場を提供することにあると思う。そのためには教員間の適材適所の分業は不可欠で、授業負担、その他業務負担の公平性の確保などということを書いてはダメだ。メリハリが必要で、研究をしていないあるいはできない教員には、学部授業、その他の業務を多めに負担させ、最先端の研究を行なっている研究者の研究時間の確保に努めるべきだ。研究指向の教員を尊重しなければ、早晩大学は無価値な存在になると思う。
- 大学院の定員を増やして欲しい
- 学生の知識水準が様々なので、その学生の現在の知識水準と最終目標に合わせた教育をするしかない。それなりの学力の学生は、旧帝大系大学大学院に進むので、それを下回る学生しか本学に入学せず、その分、指導教授の負担は重くなると思う。
- 本が読めない、本を読んで自分で考える学生が少ないので、本の読み方から、教えるコースも必要ではないか。また、学校のお勉強や大学の定期試験と学術研究や論文との違いが全く分かっていない学生が多すぎるのではないか。修士課程の1年次のカリキュラムを再考したほうが良いと思う。

8) 研究指導についてお聞きします。

a) 博士前期課程における研究指導の教育効果や問題点について、ご意見を記入してください。

【対象科目：進学類】

アカデミック・トレーニング（研究方法論など4単位）、研究指導Ⅰ～Ⅲ（各2単位）

【対象科目：専修類】

研究指導Ⅰ～Ⅲ（各2単位）

(教育効果について)

- 研究指導に必要な時間数が少ない。研究指導の裁量を拡大してほしい。
- 手取り足取り丁寧に指導すれば、低い学力水準の学生でもそれなりに成長する。
- 研究指導以外の科目の効果や意義を問うべきではないか？
- ATは学部で十分やってきていれば不要かもしれない。
- 各教員が個別で行っており、共通のテキストを活用するなど標準化をすべきである。卒業時。指導時の院生に格差が出ている。

(問題点について)

- 指導教員の決定後の変更が困難。志望理由のみで指導教員を決められると、事前に学生の能力を把握することが困難。
- 生徒が途中でプログラムをやめます。
- 指導教授の負担が大きい。前述の単位数との関係。
- 本学の大学院（現代商学専攻）が、どの程度のレベルの大学院生を受け入れ、また修了にどのレベルまで要求するのかのコンセンサスが、ある程度は必要ではないか。また、指導担当となっている教員に対する大学の処遇（位置づけ）に非常に不満である。
- ごく少数の学生のために、教員のリソースが割かれているのは問題だと思う。ある程度規模の経済が働くように、受け入れ人数を増やすべきだと思う。ただし、質の確保は重要なので、学生の受け入れ選抜には慎重である必要がある。中国での小樽商大の評判は悪くないと聞く。実際にどうか調査をして、アジアからの留学生を受け入れにもう少し積極的になってはどうか。
- （進学類）指導教員の得意なおよび好みの研究方法であれば良いですが、院生の研究にそれ以外の研究方法が必要な場合は教えられない場合がある。研究方法論は指導教員ではなく、専門（専任の）の教員を雇うべきかも知れません。また、チーム指導がやりやすくなる環境が必要と思われる。
（専修類）専修類の院生はアカデミック・トレーニングの基礎知識のレベルの低さが問題。また、日本語・英語で論文を書けるスキルが乏しい。指導教官への負担が重いため、日本語・英語の添削サービス（専任教員）導入が必要と思われる。
- 英語論文の策定のための語学教育が必要である。現役で若手の研究者で対応できる方を配置すべきである。または他の法人からの支援を依頼してはどうか？研究方法では専門科目（商学）の担当で引退した先生に非常勤講師としてご協力いただくのも一案かと。

b) 博士後期課程における研究指導の教育効果や問題点について、ご意見を記入してください。

【対象科目】
博士論文執筆計画（4単位）、博士論文指導Ⅰ～Ⅲ（各2単位）

(教育効果について)

- 指導教員と院生のマッチング・協力体制がうまくいけば教育効果が充分である。
- 進捗状況の管理をしているが、一部院生でほとんど指導を受けられていない院生がおりかわいそうである。

(問題点について)

- 博士は、前期に研究指導を入れるべきである。基本的な議論が前期に出来ず、時間が無駄に使われる。
- 副指導教員制度はありますが、より広い協力体制を整えるべきだ。制度として全学教員の専門知識を活かしながら、研究テーマや調査方法に応じて院生にその知識へのアクセスを促進し、チーム指導制度を導入すべきではないか。また、院生の研究に必要な論文・ジャーナルへのオンラインアクセスは限られているため、環境のさらに整っている総合大学と比べて本学の研究環境が劣る。そのため、後期課程の院生を本学に来てもらうことに苦戦している。
- 社会人学生が「時間がない」を理由に、休みがちになること。
- 院生に対して指導への不満や苦情を聞き取れるアンケート調査を実施すべきである。

—大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻編—

第3章 平成30年度～令和元年度

「授業評価アンケート」集計結果と分析

平成 30 年度 授業評価アンケート集計結果と分析

グローバル戦略推進センター
専門職大学院教育開発専門部会

はじめに

本報告書は、平成 30 年度に開講した 43 科目中、「経済学・分析手法Ⅲ（ビジネスエコノミクス／ビジネスエコノミクス）」「特殊講義Ⅰ（ノースウェスタン大学集中講義）／特殊講義Ⅰ（ノースウェスタン大学集中講義）」を除く 41 科目の「授業評価アンケート」の集計結果とその分析結果、ならびに「成績評価」の集計結果とその分析結果を取りまとめたものである。

「授業評価アンケート」は、授業参観による「同僚評価」と教員自身による「自己評価」とともに、授業の改善に結びつくヒントを探ろうとするものであり、これらを活用することで、よりクオリティの高い授業の実現を図るものである。一方、「成績評価」では、本専攻の在学生ならびに修了生による学習活動の成果を確認する中から、知識・スキル・マインドのさらなる向上を図るべく、授業改善の端緒を得ようとするものである。

なお、以下では「授業評価アンケート」のことを指して「アンケート」と表記している。

第1章 アンケートの概要

1. 1 質問項目

アンケートは20項目からなり、それぞれの質問項目は以下のとおりである。なお、質問項目1、2、4は5段階評価の回答と併せて自由記述による回答を、質問項目18、19、20は自由記述による回答を求めている。なお、平成27年度まで、質問項目数は15項目であったが、平成28年度から、認証評価用のアンケートとの一本化を行い、それに伴って項目数が増加していることを付言しておく。

- 1) 本科目は、下記の【カリキュラム・ポリシー】と照らして、十分に整合していますか。
- 2) 本科目の授業内容は、本専攻が目指している【学生に身につけさせたい学力・資質・能力や養成する人材像】と照らして、十分に整合していますか。
- 3) 本科目の授業内容は、シラバスに記載された授業の目的と照らして、十分に整合していますか。
- 4) 本科目では、ケース・メソッドの導入や各種エクササイズの実施、対話・討論型の授業運営、多彩なメディアや情報機器の活用など、履修生の理解を促すスキルの習得に資する工夫がみられましたか。
- 5) 授業における教員の説明（話し方の明瞭さやパワーポイントの見やすさを含む）は、分かりやすかったですか。
- 6) 授業で用いられた題材や資料は、授業を理解する上で適切なものでしたか。
- 7) 授業で行われたグループワークやグループディスカッションについて、そこから得るものがありましたか。
- 8) プレゼンテーションや全体ディスカッション（質疑応答を含む）について、そこから得るものがありましたか。
- 9) 本科目では、授業時間以外の学習（例えば、事前・事後の課題、予習、復習等）について、その必要性がどのくらいあると思いますか。
- 10) 本科目における事前・事後の課題や教室外での学習等について、シラバスではその内容が適切に記述されていましたか。また、学修管理システム等で適宜、適切に周知されていましたか。（シラバスにおける内容の適切さ／学修管理システム等で適宜周知される内容の適切さ）
- 11) 事前課題は、授業を理解する上で役に立ちましたか。
- 12) 事後課題ないしレポートの作成から得るものがありましたか。
- 13) 課題・レポート返却のタイミングや、コメントは適切なものでしたか。
- 14) 授業時間外での対応について、相対による教員の対応や学修管理システムを活用した対応は適切でしたか。
- 15) シラバス等において、モジュールごとの授業内容の記述は適切でしたか。（シラバスにおける内容の適切さ／学修管理システム等で適宜周知される内容の適切さ）
- 16) シラバスに記載された成績評価の方法・基準について、その内容は適切に記述されていましたか。また、学修管理システム等で適宜、適切に周知されていましたか。（シラバスにおける内容の適切さ／学修管理システム等で適宜周知される内容の適切さ）
- 17) 本科目の授業について、満足しましたか。
- 18) 本科目の授業について、良かった点をお知らせください。（5つまで）
- 19) 本科目の授業について、こうすれば良かったという点をお知らせください。（5つまで）
- 20) その他お気づきの点がございましたらお知らせください。

また、アンケートでは、評価対象の科目において該当しない質問項目がある場合には、評価を記入・記述しないように注意書きを施している。ちなみに、以下の記述においては、表記を簡潔にするために各質問・項目を表1のように略記している。

表1 質問項目の表記方法

質問項目	表記法	質問項目	表記法	質問項目	表記法
1)	カリキュラム	9)	時間外学習	15)	シラバス内容
2)	学力/資質/能力	10)	シラバス時間外	16)	学修管理システム内容
3)	シラバス整合性		学修管理システム時間外		シラバス成績
4)	理解促進	11)	事前課題		学修管理システム成績
5)	説明	12)	事後課題	17)	満足度
6)	資料	13)	コメント	18)	評価点
7)	グループワーク	14)	時間外対応	19)	改善点
8)	ディスカッション			20)	自由記述

1. 2 アンケートの集計結果

アンケートは、平成30年度に開講した43科目中41科目で実施し、各科目の回答者数は表2に記載の通りである。平成30年度のアンケート回収率は78.2%であり、昨年度の65.5%より上昇した。これは、平成30年度後期よりアンケートを紙媒体とWeb上の二つの方法で実施したことが影響しているものと考えられる。本アンケート調査は、FD基礎資料としてのみならず、認証評価においても重要なデータとなっており、今後も回収率向上のために具体的な対策が必要な状況にあると考える。

表2 アンケート実施状況

	区分	授業科目（新カリ/旧カリ）	担当教員	履修者数	回答者数	回収率
1	基本科目 (ベーシック)	経営戦略Ⅰ（経営戦略）/マネジメントと戦略	李 濟民	33	25	75.8%
2		マーケティングⅠ（マーケティングマネジメント） /マーケティングマネジメント	近藤 公彦	34	22	64.7%
3		経営組織Ⅰ（組織行動マネジメント） /組織行動のマネジメント	西村 友幸	32	33	100.0%
4		アカウンティングⅠ（財務会計）/企業会計の基礎	堺 昌彦	34	24	70.6%
5		ファイナンスⅠ（コーポレートファイナンス） /コーポレートファイナンス	手島 直樹	33	27	81.8%
6		ビジネス倫理/該当なし	南 健悟	34	20	58.8%
7	基礎科目 (コア)	ビジネスシミュレーション /ビジネスシミュレーション	堺・芝・椎名 谷・渡部	32	4	12.5%
8		経営戦略Ⅱ（イノベーション戦略） /経営戦略とイノベーション	玉井 健一	35	33	94.3%
9		マーケティングⅡ（市場志向経営） /顧客志向経営	内田純一・鈴木和宏	8	6	75.0%
10		経営組織Ⅱ（問題解決能力の開発） /組織能力の向上と意思決定	出川淳・林亜衣子	18	16	88.9%
11		経営組織Ⅲ（戦略的人的資源管理）/該当なし	西村 友幸	7	6	85.7%
12		アカウンティングⅡ（コストマネジメント） /コストマネジメント	篠本 智之	15	15	100.0%
13		アカウンティングⅢ（予算管理と業績評価） /予算管理と業績評価	乙政 佐吉	11	7	63.6%

	区分	授業科目（新カリ／旧カリ）	担当教員	履修者数	回答者数	回収率
14	基礎科目（コア）	ファイナンスⅡ（企業価値経営）／該当なし	手島 直樹	2	2	100.0%
15		ビジネス法務Ⅰ（ビジネス法務の基礎） ／ビジネス法務の基礎	石黒・河森・多木 小林（友）・竹村	10	10	100.0%
16		経済学・分析手法Ⅰ（行動意思決定の基礎） ／マーケティングの技法	山本 充	20	14	70.0%
17		経済学・分析手法Ⅱ（ビジネス統計分析） ／統計分析の基本	西山茂・谷祐児	9	9	100.0%
18		経済学・分析手法Ⅲ（ビジネスエコノミクス） ／ビジネスエコノミクス	瀬戸篤・西山茂			
19		ベンチャー経営Ⅰ（企業家精神） ／アントレプレナーの系譜とリーダーシップ	瀬戸 篤	5	5	100.0%
20		地域経済・経営Ⅰ（パブリックマネジメント） ／パブリックマネジメント	相内 俊一	3	0	0.0%
21		地域経済・経営Ⅱ（ソーシャルビジネス）／該当なし	相内・大見・ 山田・林	5	3	60.0%
22		地域経済・経営Ⅲ（北海道経済の課題） ／北海道経済と地域戦略	下川 哲央	8	7	87.5%
23		ビジネス英語Ⅰ（初級ビジネス英語） ／初級ビジネス英語	浦島 久	8	10	100.0%
24		発展科目（エレクトイブ）	統合科目Ⅰ（サービスマネジメント）／該当なし	内田 純一	20	11
25	統合科目Ⅱ（企業変革とリーダーシップ） ／特殊講義Ⅱ（企業変革とリーダーシップ）		吉村 仁	31	22	71.0%
26	統合科目Ⅲ（グローバルマネジメント） ／国際経営		李 濟民	7	7	100.0%
27	統合科目Ⅳ（戦略的CSR）／環境経営戦略		太田 稔	13	13	100.0%
28	アカウンティングⅣ（国際会計）／IR戦略		松本 康一郎	8	8	100.0%
29	ファイナンスⅢ（金融機関マネジメント） ／金融システムのアーキテクチャー		齋藤 一朗	10	10	100.0%
30	ビジネス法務Ⅱ（知的財産マネジメント） ／知的財産の評価と活用戦略		小寺・富田・太田	7	5	71.4%
31	ベンチャー経営Ⅱ（テクノロジービジネス創造） ／テクノロジービジネス創造		瀬戸篤・武田立	7	5	71.4%
32	ベンチャー経営Ⅲ（アントレプレナーの起業戦略） ／会社設立とファイナンス		大浦 崇志	11	11	100.0%
33	ビジネス英語Ⅱ（初中級ビジネス英語）／該当なし		小林 敏彦	6	4	66.7%
34	ビジネス英語Ⅲ（中級ビジネス英語） ／中級ビジネス英語		小林 敏彦	5	7	100.0%
35	特殊講義Ⅰ（ノースウェスタン大学集中講義） ／特殊講義Ⅰ（ノースウェスタン大学集中講義）		近藤 公彦			
36	特殊講義Ⅱ（地域医療マネジメント） ／特殊講義Ⅲ（地域医療マネジメント）		李・北川・眞鍋・ 小笠原・木下・田中 中元・中島・林・谷	12	11	91.7%
37	特殊講義Ⅲ（Demola program）／該当なし		籾本・玉井・金子	13	1	7.7%

区分	授業科目（新カリ／旧カリ）	担当教員	履修者数	回答者数	回収率
38	ビジネスプランニングⅠ／ビジネスプランニングⅠ	齋藤・出川・内田 太田・井馬・米田	34	31	91.2%
39	ビジネスプランニングⅡ／ビジネスプランニングⅡ	齋藤・出川・ 山本・手島・ 内田・奥田	35	24	68.6%
40	ケーススタディⅠ／ケーススタディⅠ	近藤・堺・西村	34	31	91.2%
41	ケーススタディⅡ／ケーススタディⅡ	玉井・籙本・北川	35	26	74.3%
42	ビジネスワークショップ ／ビジネスワークショップⅠ	玉井・籙本・李・ 瀬戸・小林（敏）	36	34	94.4%
43	リサーチペーパー／ビジネスワークショップⅡ	アントレ専攻専 任教員全員	36	32	88.9%
合計および平均			756	591	78.2%

※回答者数が履修者数を超過しているものは、回答者にリカレント受講生や現代商学専攻の受講生が含まれている。その場合、回答率100%を超えるが、そうした場合には、回答率をすべて100%に修正している。
科目番号18については、履修者数が0名のためアンケート回答がなく、科目番号35については、海外での集中講義のためアンケートを実施していない。

各質問項目に対する5段階評価の評価合計数と、各質問項目の平均評価値については、表3に示したとおりである。

表3 回答数と平均値

質問項目		カリキュラム	学力/ 資質/能力	シラバス 整合性	理解 促進	説明	資料	グループ ワーク	ディスカ ッション	時間外 学習	シラバス 時間外
回答 1	前期	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	後期	0	0	0	0	2	1	1	2	0	0
回答 2	前期	0	0	0	1	1	2	3	3	3	2
	後期	1	2	2	6	7	6	6	2	3	2
回答 3	前期	6	9	5	6	19	18	11	11	16	6
	後期	20	20	25	34	35	34	19	30	29	36
回答 4	前期	47	52	48	66	69	64	59	59	66	64
	後期	83	93	65	81	81	90	74	72	79	85
回答 5	前期	209	201	209	189	172	178	180	189	177	190
	後期	225	214	237	208	204	198	213	223	218	206
1～5合計		591	591	591	591	591	591	566	591	591	591
平均		4.69	4.65	4.70	4.58	4.50	4.52	4.60	4.60	4.57	4.59

質問項目			学修管理システム 時間外	事前課題	事後課題	コメント	時間外対応	シラバス内容	学修管理システム 内容	シラバス成績	学修管理システム 成績	満足度
回答	1	前期	2	0	0	2	1	1	2	0	0	1
		後期	0	1	1	4	0	0	0	1	1	2
回答	2	前期	0	1	1	6	1	1	0	0	0	2
		後期	2	7	5	11	6	3	3	2	2	4
回答	3	前期	8	10	7	12	18	7	9	11	12	11
		後期	42	43	29	31	33	24	32	29	34	28
回答	4	前期	62	58	56	53	52	60	58	57	58	56
		後期	95	79	71	69	85	80	82	78	73	70
回答	5	前期	190	193	198	189	190	193	193	194	192	192
		後期	190	199	223	214	205	222	212	219	219	225
1～5合計			591	591	591	591	591	591	591	591	591	591
平均			4.54	4.54	4.63	4.52	4.55	4.63	4.60	4.62	4.61	4.60

質問項目	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	1～5 合計	全項平均
合計	26	109	819	2,749	8,092	11,795	4.59

5段階評価の結果をみると、全ての質問項目について、平均値は前年度を上回っており、全科目平均値は前年度の4.41に対して4.59に上昇した。評価値別では、今回のアンケートにおいて、回答「1」と「2」の評価は全体の1.1%、「5」の評価は全体の回答数の68.6%を占めている。なお、前年度の回答「1」と「2」の評価が全体に占める割合が3.4%、「5」の評価が59.3%となっていることから、今年度のアンケートでは総じて高い評価が得られたと判断される。

質問項目別では、「説明」「資料」「コメント」の評価が相対的に低い。「説明」「資料」は授業の根幹を成すものであり、これらについては、授業参観による「同僚評価」や履修学生によるアンケートへの自由記述などを参考にしたり、相対的に高い評価が得られている科目に見習ったりするなど、改善に向けての努力を払う必要がある。また、「コメント」については、さらなる学習へと進む際の励みともなることから、これについても、相対的に評価の高い科目での方法を互いに開陳し合うなど、情報の共有化を図る必要があると思われる。

表4 平成18年度～平成30年度の満足度の推移

年度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
満足度	4.22	4.30	4.21	4.13	4.31	4.43	4.42	4.33	4.50	4.56	4.36	4.37	4.60

表4は、平成18年度から今年度までの満足度の推移を示したものである。また、後掲表7には、科目ごとの各科目の評価値の結果を示した。全体的にみて、今年度の授業満足度は4.60と、これまでにない評価を得ている。高い評価を得ること自体は、われわれの望むところではあるが、学生たちが何を以て高い満足度を得ているのか、その理由にまで遡って把握しておくことは、今後も、高い満足度を維持していく上で、肝要かと思われる。その点では、繰り返しとなるが、個々の質問項目で相対的に高い評価を得ている授業については、その運営方法の情報共有を図り、授業改善に向けた不断の努力を払っていくことが重要となる。

第2章 アンケートの分析

2.1 「教員の教授法について」の分析

各質問項目間の相関係数については、表5に示したとおりである。これらの中から、満足度との相関関係および各質問項目の平均点を抽出したものが表6、そして、表3と表6に基づいて散布図を描いたものが、図1の影響度-パフォーマンス・マトリクスである。

表5において、相関係数が比較的高い項目に着目すると、まず、「カリキュラム」と「学力/資質/能力」の相関係数が高い。すなわち、【カリキュラム・ポリシー】との整合性が高い科目ほど、【学生に身につけさせたい学力・資質・能力や養成する人材像】との整合性も高いことから、科目内容を構想する際には、【カリキュラム・ポリシー】や【学生に身につけさせたい学力・資質・能力や養成する人材像】を参照軸として、首尾一貫した科目内容とすることが重要である。また、「グループワーク」と「ディスカッション」の相関係数の高さからは、グループワーク、プレゼンテーション、全体質疑を一体的に行うことの重要性が示唆される。さらにいえば、「シラバス」関連の項目と「学修管理システム」関連の項目の相関が高いことがみてとれる。授業内容や成績評価の方法・基準とともに、事前・事後の課題や教室外での学習・対応に関わる情報のシラバスへの明記はもとより、学修管理システムであらためての周知徹底を図るなど、学生たちへの情報提供にも十分な配慮が求められる。

表6では、「事後課題」と「満足度」の相関係数が相対的に高く、適切に課された事後課題への取り組みを通して、知識やスキル、マインドの定着化が満足度を高めていると考えられる。その他では、「学力/資質/能力」や「理解促進」と満足度の相関係数が高い。科目内容として、本専攻が目指している【学生に身につけさせたい学力・資質・能力や養成する人材像】と整合していること、あるいはケース・メソッドの導入や各種エクササイズの実施、対話・討論型の授業運営、多彩なメディアや情報機器の活用など、学生たちの理解を促しスキルの習得に資する工夫が為されていることが、満足度の向上につながっている。その一方で、学修管理システムを活用した事前・事後課題の周知徹底や授業時間外の対応、成績評価の方法・基準の周知に改善の余地が残されている。「グループワーク」に関しても、その意図や論点、議論から導き出さなければならない事柄などを明示することによって、より一層満足度を高めることができるだろう。

図1は、表3と表6をベースに、縦軸に項目の平均評価を、横軸に満足度との相関係数を取り、各質問項目をプロットしたものである。

(1) 「強み」と「優先的に改善が必要」な項目

第1象限に位置する項目は、満足度との相関が高くかつ評価も高い項目であり、本専攻の「強み」といえる項目である。これに対して、第4象限に位置する項目は、満足度との相関が高いにも関わらず評価が低い項目であり、本専攻において「優先的に改善が必要」と考えられる項目である。なお、第3象限に位置する項目は、評価が低い項目ではあるが満足度との相関が低いことから「改善の優先度は低い」と考えられる。第2象限に位置する項目は、満足度との相関が低いものの高い評価を得ていることから当面は「現状維持」が妥当であると考えられる。

H30年度のデータに基づいてみると、本専攻の「強み」は「カリキュラム」「学力/資質/能力」「シラバス整合性」「事後課題」「シラバス内容」であり、総じていえば、本専攻の授業が合目的に編成されており、シラバスを通して授業内容が周知されていること、また、事後課題への取り組みを通して、学生たちは知識・スキル、あるいはマインドを向上させていることを意味する。

これに対して、「優先的に改善が必要」な項目としては、「理解促進」「事前課題」「時間外対応」が挙げられる。ケース・メソッドの導入や各種エクササイズの実施、対話・討論型の授業運営、多彩なメディアや情報機器の活用など、履修生の理解を促しスキルの習得に資する工夫において

は、現状に満足することなく、さらなる磨きをかけることが求められる。また、事前課題に関しては、それに取り組むことへの学習上の意味を周知し、授業あるいは事後課題との連続性・関連性を持たせることが重要であると考え。さらにいえば、授業時間外での対応においては、学修管理システムの活用を促すとともに、場合によっては、オフィスアワーを設けることも一考に値するだろう。

(2) 平均評価の改善のために

図1の第3象限に注目するならば、「説明」「資料」「コメント」の改善が求められるだろう。これらは、授業における教員の説明（話し方の明瞭さやパワーポイントの見やすさを含む）や、授業で用いる題材や資料に関わる項目であることから、いずれも教員の側のテクニカルな向上によって改善を図ることができる。授業参観時における同僚評価や好事例の情報共有、あるいは研修会の開催など、機会を捉えてのスキルアップが重要であると考え。

(3) 前回との比較から見える「強み」と「優先的に改善が必要な項目」

各象限に位置する項目は、年度によって変動があることは言うまでもないが、その中にあるのも昨年度も今年度と同様に「強み」に分類されるのは「学力/資質/能力」「事後課題」「シラバス内容」であり、「優先的に改善が必要」な項目に分類されるのは「理解促進」である。

したがって、本専攻では、アドミッション・ポリシーやカリキュラム・ポリシーとマッチした授業を提供し、また受講生が学ぶところの大きい事後課題を課すことで、授業満足度を高めており、その点において強みを持っていると言えよう。だがその一方で、受講生の理解を促しスキルの習得に資する資料作成や、ケース・メソッドの導入や各種エクササイズの実施、対話・討論型の授業運営、あるいは多彩なメディアや情報機器の活用など、授業のわかりやすさという面において課題を残している。

表 5 質問項目間の相関係数

	カリキュラム	学力/資質/能力	シラバス整合性	理解促進	説明	資料	グループワーク	ディスカッション	時間外学習	シラバス時間外	学修管理システム時間外	事前課題	事後課題	コメント	時間外対応	シラバス内容	学修管理システム内容	シラバス成績	学修管理システム成績	満足度
カリキュラム	1.000																			
学力/資質/能力	0.809	1.000																		
シラバス整合性	0.686	0.680	1.000																	
理解促進	0.574	0.648	0.681	1.000																
説明	0.546	0.595	0.584	0.634	1.000															
資料	0.539	0.581	0.543	0.632	0.755	1.000														
グループワーク	0.510	0.541	0.527	0.582	0.498	0.510	1.000													
ディスカッション	0.530	0.522	0.520	0.574	0.516	0.533	0.841	1.000												
時間外学習	0.540	0.558	0.574	0.558	0.360	0.432	0.523	0.532	1.000											
シラバス時間外	0.632	0.645	0.754	0.658	0.589	0.570	0.454	0.504	0.533	1.000										
学修管理システム時間外	0.587	0.578	0.670	0.606	0.533	0.532	0.427	0.470	0.492	0.839	1.000									
事前課題	0.566	0.589	0.576	0.597	0.485	0.531	0.548	0.546	0.605	0.605	0.561	1.000								
事後課題	0.575	0.603	0.590	0.554	0.479	0.487	0.523	0.537	0.610	0.570	0.509	0.660	1.000							
コメント	0.511	0.526	0.517	0.526	0.460	0.421	0.418	0.404	0.487	0.527	0.507	0.572	0.614	1.000						
時間外対応	0.606	0.593	0.620	0.650	0.589	0.568	0.446	0.485	0.514	0.681	0.705	0.602	0.559	0.646	1.000					
シラバス内容	0.636	0.650	0.771	0.641	0.603	0.607	0.459	0.488	0.517	0.841	0.775	0.593	0.561	0.557	0.703	1.000				
学修管理システム内容	0.591	0.601	0.680	0.570	0.542	0.539	0.427	0.447	0.483	0.742	0.836	0.570	0.521	0.518	0.731	1.000				
シラバス成績	0.667	0.691	0.717	0.616	0.602	0.560	0.437	0.458	0.482	0.755	0.693	0.605	0.550	0.611	0.677	0.806	0.758	1.000		
学修管理システム成績	0.596	0.608	0.669	0.578	0.525	0.513	0.426	0.453	0.460	0.670	0.690	0.565	0.512	0.560	0.664	0.727	0.782	0.897	1.000	
満足度	0.636	0.684	0.673	0.685	0.612	0.607	0.597	0.614	0.605	0.613	0.560	0.665	0.734	0.612	0.635	0.663	0.612	0.627	0.591	1.000

図1.影響度・パフォーマンスマトリクス

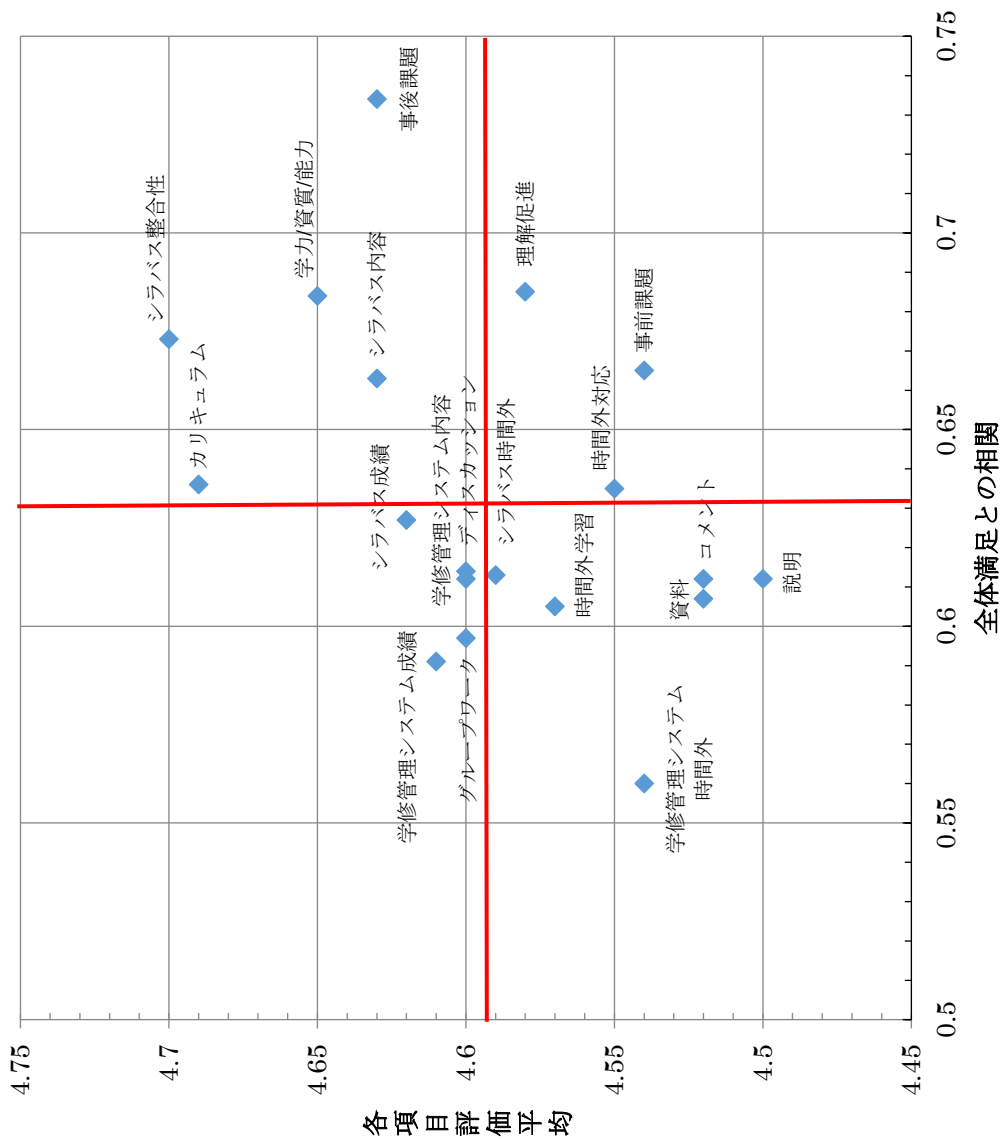


表 6 満足度との相関係数および各項目評価平均

各項目	全体満足との相関係数	各項目評価平均
カリキュラム	0.636	4.69
学力/資質/能力	0.684	4.65
シラバス整合性	0.673	4.70
理解促進	0.685	4.58
説明	0.612	4.50
資料	0.607	4.52
グループワーク	0.597	4.60
ディスカッション	0.614	4.60
時間外学習	0.605	4.57
シラバス時間外	0.613	4.59
学修管理システム時間外	0.560	4.54
事前課題	0.665	4.54
事後課題	0.734	4.63
コメント	0.612	4.52
時間外対応	0.635	4.55
シラバス内容	0.663	4.63
学修管理システム内容	0.612	4.60
シラバス成績	0.627	4.62
学修管理システム成績	0.591	4.61
平均	0.633	4.592

表7 個別科目ごとの評価値

区分	授業科目 上段：新カリ 下段：旧カリ	開講期	担当 教員	カリキ ュラム	学力 /資質 /能力	シラバス 整合性	理解 促進	説明	資料	グループ ワーク	ディスカ ッション	時間外 学習	シラバス 時間外	学修管 理シス テム 時間外	事前 課題	事後 課題	コメ ント	時間外 対応	シラバス 内容	学修管 理シス テム 内容	シラバス 成績	学修管 理シス テム 成績	満足度	
基本科目 (ベーシック)	経営戦略Ⅰ (経営戦略) マネジメントと戦略	前期	李	4.88	4.84	4.76	4.68	4.36	4.44	4.72	4.68	4.80	4.48	4.48	4.84	4.80	4.64	4.44	4.56	4.56	4.68	4.56	4.76	
	経営戦略Ⅰ (経営戦略) マーケティングマネジメント マーケティングマネジメント	前期	近藤	4.77	4.82	4.82	4.68	4.64	4.68	4.86	4.77	4.73	4.68	4.68	4.68	4.64	4.36	4.59	4.73	4.68	4.59	4.55	4.55	
	経営戦略Ⅰ (経営戦略) 組織行動のマネジメント	前期	西村	4.82	4.67	4.88	4.52	4.73	4.67	4.64	4.64	4.48	4.82	4.76	4.76	4.73	4.76	4.73	4.85	4.79	4.85	4.79	4.67	
	経営戦略Ⅰ (経営戦略) アカウンティングI (財務会計)	前期	堺	4.83	4.83	4.83	4.88	4.46	4.58	4.74	4.75	4.67	4.71	4.79	4.67	4.75	4.79	4.67	4.79	4.79	4.71	4.71	4.83	
	経営戦略Ⅰ (経営戦略) 企業会計の基礎	後期	手島	4.78	4.78	4.78	4.41	4.52	4.59	4.29	4.19	4.63	4.63	4.67	4.33	4.81	4.63	4.63	4.74	4.78	4.78	4.74	4.63	
	経営戦略Ⅰ (経営戦略) コーポレートファイナンス	前期	南	4.70	4.70	4.85	4.75	4.90	4.90	4.68	4.75	4.10	4.80	4.80	4.70	4.45	4.10	4.60	4.85	4.80	4.80	4.80	4.80	4.75
	経営戦略Ⅰ (経営戦略) ビジネス倫理	前期	南	4.70	4.70	4.85	4.75	4.90	4.90	4.68	4.75	4.10	4.80	4.80	4.70	4.45	4.10	4.60	4.85	4.80	4.80	4.80	4.80	4.75
	経営戦略Ⅰ (経営戦略) ビジネスコミュニケーション	夏季 集中	堺外	5.00	5.00	5.00	4.75	4.75	5.00	5.00	5.00	4.75	4.75	4.75	5.00	4.75	5.00	4.50	4.75	4.50	4.75	4.25	5.00	
	経営戦略Ⅰ (経営戦略) ビジネスコミュニケーション	後期	玉井	4.52	4.39	4.52	4.36	4.03	4.24	4.42	4.39	4.45	4.55	4.52	4.30	4.33	4.67	4.48	4.58	4.58	4.64	4.67	4.33	
	経営戦略Ⅰ (経営戦略) 経営戦略とイノベーション	後期	内田 鈴木	4.33	4.33	4.17	4.17	4.17	4.17	3.83	3.83	4.00	4.00	4.17	4.17	3.83	3.83	4.17	4.17	4.17	4.17	4.00	4.00	
基礎科目 (コア)	経営戦略Ⅱ (問題解決能力の醸成) 組織能力の向上と意思決定	後期	出川 林	4.25	4.38	4.13	4.13	4.44	4.38	4.31	4.25	3.94	4.00	3.94	3.94	3.94	3.75	4.06	4.13	4.06	4.13	4.06	3.69	
	経営戦略Ⅱ (問題解決能力の醸成) 組織能力の向上と意思決定	後期	出川 林	4.25	4.38	4.13	4.13	4.44	4.38	4.31	4.25	3.94	4.00	3.94	3.94	3.94	3.75	4.06	4.13	4.06	4.13	4.06	3.69	
	経営戦略Ⅲ (戦略的人的資源管理)	前期	西村	4.67	4.50	4.67	4.17	4.33	4.50	4.67	4.67	4.50	4.67	4.50	4.67	4.67	4.67	4.67	4.50	4.50	4.50	4.50	4.67	
	経営戦略Ⅲ (戦略的人的資源管理)	後期	西村	4.67	4.50	4.67	4.17	4.33	4.50	4.67	4.67	4.50	4.67	4.50	4.67	4.67	4.67	4.67	4.50	4.50	4.50	4.50	4.67	
	経営戦略Ⅲ (戦略的人的資源管理)	前期	西村	4.67	4.50	4.67	4.17	4.33	4.50	4.67	4.67	4.50	4.67	4.50	4.67	4.67	4.67	4.67	4.50	4.50	4.50	4.50	4.67	
	経営戦略Ⅲ (戦略的人的資源管理)	後期	西村	4.67	4.50	4.67	4.17	4.33	4.50	4.67	4.67	4.50	4.67	4.50	4.67	4.67	4.67	4.67	4.50	4.50	4.50	4.50	4.67	
	経営戦略Ⅲ (戦略的人的資源管理)	前期	西村	4.67	4.50	4.67	4.17	4.33	4.50	4.67	4.67	4.50	4.67	4.50	4.67	4.67	4.67	4.67	4.50	4.50	4.50	4.50	4.67	
	経営戦略Ⅲ (戦略的人的資源管理)	後期	西村	4.67	4.50	4.67	4.17	4.33	4.50	4.67	4.67	4.50	4.67	4.50	4.67	4.67	4.67	4.67	4.50	4.50	4.50	4.50	4.67	
	経営戦略Ⅲ (戦略的人的資源管理)	前期	西村	4.67	4.50	4.67	4.17	4.33	4.50	4.67	4.67	4.50	4.67	4.50	4.67	4.67	4.67	4.67	4.50	4.50	4.50	4.50	4.67	
	経営戦略Ⅲ (戦略的人的資源管理)	後期	西村	4.67	4.50	4.67	4.17	4.33	4.50	4.67	4.67	4.50	4.67	4.50	4.67	4.67	4.67	4.67	4.50	4.50	4.50	4.50	4.67	

区分	授業科目 上段：新カリ 下段：旧カリ	開講期	担当 教員	カリキ ュラム	学力 /資質 /能力	シラバス 整合性	理解 促進	説明	資料	グループ ワーク	ディスカ ッション	時間外 学習	シラバス 時間外	学修管 理シス テム 時間外	事前 課題	事後 課題	コメ ント	時間外 対応	シラバス 内容	学修管 理シス テム 内容	シラバス 成績	学修管 理シス テム 成績	満足度	
基本科目 (ベーシック)	経営戦略Ⅰ (経営戦略) マネジメントと戦略	前期	李	4.88	4.84	4.76	4.68	4.36	4.44	4.72	4.68	4.80	4.48	4.48	4.84	4.80	4.64	4.44	4.56	4.56	4.68	4.56	4.76	
	経営戦略Ⅰ (経営戦略) マーケティングマネジメント マーケティングマネジメント	前期	近藤	4.77	4.82	4.82	4.68	4.64	4.68	4.86	4.77	4.73	4.68	4.68	4.68	4.64	4.36	4.59	4.73	4.68	4.59	4.55	4.55	
	経営戦略Ⅰ (経営戦略) 組織行動のマネジメント	前期	西村	4.82	4.67	4.88	4.52	4.73	4.67	4.64	4.64	4.48	4.82	4.76	4.76	4.73	4.76	4.73	4.85	4.79	4.85	4.79	4.67	
	経営戦略Ⅰ (経営戦略) アカウンティングI (財務会計)	前期	堺	4.83	4.83	4.83	4.88	4.46	4.58	4.74	4.75	4.67	4.71	4.79	4.67	4.75	4.79	4.67	4.79	4.79	4.71	4.71	4.83	
	経営戦略Ⅰ (経営戦略) 企業会計の基礎	後期	手島	4.78	4.78	4.78	4.41	4.52	4.59	4.29	4.19	4.63	4.63	4.67	4.33	4.81	4.63	4.63	4.74	4.78	4.78	4.74	4.63	
	経営戦略Ⅰ (経営戦略) コーポレートファイナンス	前期	南	4.70	4.70	4.85	4.75	4.90	4.90	4.68	4.75	4.10	4.80	4.80	4.70	4.45	4.10	4.60	4.85	4.80	4.80	4.80	4.80	4.75
	経営戦略Ⅰ (経営戦略) ビジネス倫理	前期	南	4.70	4.70	4.85	4.75	4.90	4.90	4.68	4.75	4.10	4.80	4.80	4.70	4.45	4.10	4.60	4.85	4.80	4.80	4.80	4.80	4.75
	経営戦略Ⅰ (経営戦略) ビジネスコミュニケーション	夏季 集中	堺外	5.00	5.00	5.00	4.75	4.75	5.00	5.00	5.00	4.75	4.75	4.75	5.00	4.75	5.00	4.50	4.75	4.50	4.75	4.25	5.00	
	経営戦略Ⅰ (経営戦略) ビジネスコミュニケーション	後期	玉井	4.52	4.39	4.52	4.36	4.03	4.24	4.42	4.39	4.45	4.55	4.52	4.30	4.33	4.67	4.48	4.58	4.58	4.64	4.67	4.33	
	経営戦略Ⅰ (経営戦略) 経営戦略とイノベーション	後期	内田 鈴木	4.33	4.33	4.17	4.17	4.17	4.17	3.83	3.83	4.00	4.00	4.17	4.17	3.83	3.83	4.17	4.17	4.17	4.17	4.00	4.00	
基礎科目 (コア)	経営戦略Ⅱ (問題解決能力の醸成) 組織能力の向上と意思決定	後期	出川 林	4.25	4.38	4.13	4.13	4.44	4.38	4.31	4.25	3.94	4.00	3.94	3.94	3.94	3.75	4.06	4.13	4.06	4.13	4.06	3.69	
	経営戦略Ⅱ (問題解決能力の醸成) 組織能力の向上と意思決定	後期	出川 林	4.25	4.38	4.13	4.13	4.44	4.38	4.31	4.25	3.94	4.00	3.94	3.94	3.94	3.75	4.06	4.13	4.06	4.13	4.06	3.69	
	経営戦略Ⅲ (戦略的人的資源管理)	前期	西村	4.67	4.50	4.67	4.17	4.33	4.50	4.67	4.67	4.50	4.67	4.50	4.67	4.67	4.67	4.67	4.50	4.50	4.50	4.50	4.67	
	経営戦略Ⅲ (戦略的人的資源管理)	後期	西村	4.67	4.50	4.67	4.17	4.33	4.50	4.67	4.67	4.50	4.67	4.50	4.67	4.67	4.67	4.67	4.50	4.50	4.50	4.50	4.67	
	経営戦略Ⅲ (戦略的人的資源管理)	前期	西村	4.67	4.50	4.67	4.17	4.33	4.50	4.67	4.67	4.50	4.67	4.50	4.67	4.67	4.67	4.67	4.50	4.50	4.50	4.50	4.67	
	経営戦略Ⅲ (戦略的人的資源管理)	後期	西村	4.67	4.50	4.67	4.17	4.33	4.50	4.67	4.67	4.50	4.67	4.50	4.67	4.67	4.67	4.67	4.50	4.50	4.50	4.50	4.67	
	経営戦略Ⅲ (戦略的人的資源管理)	前期	西村	4.67	4.50	4.67	4.17	4.33	4.50	4.67	4.67	4.50	4.67	4.50	4.67	4.67	4.67	4.67	4.50	4.50	4.50	4.50	4.67	
	経営戦略Ⅲ (戦略的人的資源管理)	後期	西村	4.67	4.50	4.67	4.17	4.33	4.50	4.67	4.67	4.50	4.67	4.50	4.67	4.67	4.67	4.67	4.50	4.50	4.50	4.50	4.67	
	経営戦略Ⅲ (戦略的人的資源管理)	前期	西村	4.67	4.50	4.67	4.17	4.33	4.50	4.67	4.67	4.50	4.67	4.50	4.67	4.67	4.67	4.67	4.50	4.50	4.50	4.50	4.67	
	経営戦略Ⅲ (戦略的人的資源管理)	後期	西村	4.67	4.50	4.67	4.17	4.33	4.50	4.67	4.67	4.50	4.67	4.50	4.67	4.67	4.67	4.67	4.50	4.50	4.50	4.50	4.67	

リサーチペーパー ビジネスワークショップII	後期	4.72	4.72	4.75	4.59	4.56	4.50	4.77	4.75	4.63	4.63	4.56	4.66	4.66	4.56	4.66	4.59	4.59	4.63	4.63	4.69	4.63	4.72
	7/10 職歴 教員全員	4.69	4.65	4.70	4.58	4.50	4.52	4.60	4.60	4.57	4.59	4.54	4.63	4.52	4.55	4.63	4.60	4.62	4.61	4.61	4.62	4.61	4.60
	項目 平均	4.69	4.65	4.70	4.58	4.50	4.52	4.60	4.60	4.57	4.59	4.54	4.63	4.52	4.55	4.63	4.60	4.62	4.61	4.61	4.62	4.61	4.60
	全体 平均	4.59																					

※経済学・分析手法Ⅲ（ビジネスエコノミクス）は履修者0名のため、特殊講義Ⅰ（ノースウェスタン大学集中講義）は海外での集中講義のためアンケートを実施せず。

3章 まとめ

3.1 分析結果のまとめ

今回のアンケート調査と分析を通じて、以下の点が明らかとなった。

- 授業評価アンケートの結果から、全ての質問項目において、評価平均値は前年度を上回り、全科目の評価平均値は前年度の4.41から今年度4.59へ上昇した。しかしながら、質問項目別では「説明」「資料」「コメント」の評価が相対的に低い。「説明」「資料」は授業の根幹を成すものであり、これらについては、授業参観による「同僚評価」や履修学生によるアンケートへの自由記述などを参考にしたり、相対的に高い評価が得られている科目に見習ったりするなど、改善に向けての努力を払う必要がある。
- 授業満足度の面では、今年度の評価が4.60と、これまでにない評価を得ている。高い評価を得ること自体は、われわれの望むところではあるが、学生たちが何を以て高い満足度を得ているのか、その理由にまで遡って把握しておくことは、今後も、高い満足度を維持していく上で、肝要かと思われる。
- 質問項目間で相関係数が比較的高い項目に着目すると、まず、「カリキュラム」と「学力/資質/能力」の相関係数が高い。すなわち、【カリキュラム・ポリシー】との整合性が高い科目ほど、【学生に身につけさせたい学力・資質・能力や養成する人材像】との整合性も高いことから、科目内容を構想する際には、【カリキュラム・ポリシー】や【学生に身につけさせたい学力・資質・能力や養成する人材像】を参照軸として、首尾一貫した科目内容とすることが重要である。
- また、「グループワーク」と「ディスカッション」の相関係数の高さからは、グループワーク、プレゼンテーション、全体質疑を一体的に行うことの重要性が示唆される。
- さらにいえば、「シラバス」関連の項目と「学修管理システム」関連の項目の相関が高いことがみてとれる。授業内容や成績評価の方法・基準とともに、事前・事後の課題や教室外での学習・対応に関わる情報のシラバスへの明記はもとより、学修管理システムであらためての周知徹底を図るなど、学生たちへの情報提供にも十分な配慮が求められる。
- 授業満足度との関連では、「事後課題」と「満足度」の相関係数が相対的に高く、適切に課された事後課題への取り組みを通して、知識やスキル、マインドの定着化が満足度を高めていると考えられる。その他では、「学力/資質/能力」や「理解促進」と満足度の相関係数が高い。科目内容として、本専攻が目指している【学生に身につけさせたい学力・資質・能力や養成する人材像】と整合していること、あるいはケース・メソッドの導入や各種エクササイズの実施、対話・討論型の授業運営、多彩なメディアや情報機器の活用など、学生たちの理解を促しスキルの習得に資する工夫が為されていることが、満足度の向上につながっている。

3. 2 今回の研修で確認・議論しておきたい点

これまでのアンケート調査と分析の結果を踏まえ、今回のFD研修においては、以下の点について確認や議論をおこないたい。

- 満足度との相関が高くかつ評価も高い質問項目に着目すると、「カリキュラム」「学力/資質/能力」「シラバス整合性」「事後課題」「シラバス内容」がこの範疇に入り、これらが本専攻におけるいわば「強み」といえる。総じていえば、本専攻の授業が合目的に編成されており、シラバスを通して授業内容が周知されていること、また、事後課題への取り組みを通して、学生たちは知識・スキル、あるいはマインドを向上させていることを意味する。
- これに対して、「優先的に改善が必要」な項目（相対的に評価は高いものの、満足度との相関が低い質問項目）としては、「理解促進」「事前課題」「時間外対応」が挙げられる。ケース・メソッドの導入や各種エクササイズの実施、対話・討論型の授業運営、多彩なメディアや情報機器の活用など、履修生の理解を促しスキルの習得に資する工夫においては、現状に満足することなく、さらなる磨きをかけることが求められる。また、事前課題に関しては、それに取り組むことへの学習上の意味を周知し、授業あるいは事後課題との連続性・関連性を持たせることが重要であると考える。
- また、相対的に評価が低く、かつ満足度との相関も低い質問項目として、「説明」「資料」「コメント」の改善が求められるだろう。これらは、授業における教員の説明（話し方の明瞭さやパワーポイントの見やすさを含む）や、授業で用いる題材や資料に関わる項目であることから、いずれも教員の側のテクニカルな向上によって改善を図ることができる。授業参観時における同僚評価や好事例の情報共有、あるいは研修会の開催など、機会を捉えてのスキルアップが重要であると考える。
- なお、アンケート回収率に関しては、従来のWeb媒体による調査に加えて、紙媒体による調査を再び導入したことにより、前年度に比べて上昇した。学生たちからの幅広い意見を汲み上げるという観点からも、引き続き、紙媒体による調査も併用していきたい。

令和元年度 授業改善アンケート集計結果と分析

グローバル戦略推進センター
専門職大学院教育開発専門部会

はじめに

本報告書は、令和元年度に開講した 43 科目中、「経済学・分析手法Ⅰ（行動意思決定の基礎）」「経済学・分析手法Ⅲ（ビジネスエコノミクス）」「特殊講義Ⅰ（ノースウェスタン大学集中講義）」を除く 40 科目の「授業改善アンケート」の集計結果とその分析結果、ならびに「成績評価」の集計結果とその分析結果を取りまとめたものである。

「授業改善アンケート」は、授業参観による「同僚評価」と教員自身による「自己評価」とともに、授業の改善に結びつくヒントを探ろうとするものであり、これらを活用することで、より品質の高い授業の実現を図るものである。これに対して、「成績評価」は本専攻の在学生ならびに修了生による学習活動の成果を確認し、より一層の能力向上を図ろうとするものである。

なお、以下では「授業改善アンケート」のことを指して「アンケート」と表記している。

第1章 アンケートの概要

1. 1 質問項目

アンケートは20項目からなり、それぞれの質問項目は以下のとおりである。なお、質問項目1、2、4は五点尺度の回答と併せて自由記述による回答を、質問項目18、19、20は自由記述による回答を求めている。以前まで項目数は15項目であったが、平成28年度から、認証評価用のアンケートとの一本化を行い、それに伴って項目数が増加している。

- 1) 本科目は、下記の【カリキュラム・ポリシー】と照らして、十分に整合していますか。
- 2) 本科目の授業内容は、本専攻が目指している【学生に身につけさせたい学力・資質・能力や養成する人材像】と照らして、十分に整合していますか。
- 3) 本科目の授業内容は、シラバスに記載された授業の目的と照らして、十分に整合していますか。
- 4) 本科目では、ケース・メソッドの導入や各種エクササイズの実施、対話・討論型の授業運営、多彩なメディアや情報機器の活用など、履修生の理解を促すスキルの習得に資する工夫がみられましたか。
- 5) 授業における教員の説明（話し方の明瞭さやパワーポイントの見やすさを含む）は、分かりやすかったですか。
- 6) 授業で用いられた題材や資料は、授業を理解する上で適切なものでしたか。
- 7) 授業で行われたグループワークやグループディスカッションについて、そこから得るものがありましたか。
- 8) プレゼンテーションや全体ディスカッション（質疑応答を含む）について、そこから得るものがありましたか。
- 9) 本科目では、授業時間以外の学習（例えば、事前・事後の課題、予習、復習等）について、その必要性がどのくらいあると思いますか。
- 10) 本科目における事前・事後の課題や教室外での学習等について、シラバスではその内容が適切に記述されていましたか。また、学修管理システム等で適宜、適切に周知されていましたか。（シラバスにおける内容の適切さ／学修管理システム等で適宜周知される内容の適切さ）
- 11) 事前課題は、授業を理解する上で役に立ちましたか。
- 12) 事後課題ないしレポートの作成から得るものがありましたか。
- 13) 課題・レポート返却のタイミングや、コメントは適切なものでしたか。
- 14) 授業時間外での対応について、相対による教員の対応や学修管理システムを活用した対応は適切でしたか。
- 15) シラバス等において、モジュールごとの授業内容の記述は適切でしたか。（シラバスにおける内容の適切さ／学修管理システム等で適宜周知される内容の適切さ）
- 16) シラバスに記載された成績評価の方法・基準について、その内容は適切に記述されていましたか。また、学修管理システム等で適宜、適切に周知されていましたか。（シラバスにおける内容の適切さ／学修管理システム等で適宜周知される内容の適切さ）
- 17) 本科目の授業について、満足しましたか。
- 18) 本科目の授業について、良かった点をお知らせください。（5つまで）
- 19) 本科目の授業について、こうすれば良かったという点をお知らせください。（5つまで）
- 20) その他お気づきの点がございましたらお知らせください。

なお、アンケートは各質問項目については5段階評価を行っており、評価対象の授業において該当しない質問項目については記述しないよう注意書きを施している。また、以下の記述においては、表記を簡潔にするために各質問項目を表1のように略記している。

表1 質問項目の表記方法

質問項目	表記法	質問項目	表記法	質問項目	表記法
1)	カリキュラム	9)	時間外学習	15)	シラバス内容
2)	学力/資質/能力	10)	シラバス時間外	16)	学修管理システム内容
3)	シラバス整合性		学修管理システム時間外		シラバス成績
4)	理解促進	11)	事前課題		学修管理システム成績
5)	説明	12)	事後課題	17)	満足度
6)	資料	13)	コメント	18)	評価点
7)	グループワーク	14)	時間外対応	19)	改善点
8)	ディスカッション			20)	自由記述

1.2 アンケートの集計結果

アンケートは、令和元年度に開講した43科目中40科目で実施し、各科目の回答者数は表2に記載の通りである。令和元年度のアンケート回収率は90.1%であり、昨年度の78.2%より上昇した。前年度後期より紙媒体とWebの二つの方法で実施していることが影響したものと考えられる。本アンケート調査は、FD基礎資料としてのみならず、認証評価においても重要なデータとなっており、さらなる回収率向上のために具体的な対策が必要な状況であろう。

表2 アンケート実施状況

	区分	授業科目	担当教員	履修者数	回答者数	回収率
1	基本科目 (ベーシック)	経営戦略Ⅰ (経営戦略)	李 濟民	35	35	100%
2		マーケティングⅠ (マーケティングマネジメント)	近藤 公彦	35	33	94.3%
3		経営組織Ⅰ (組織行動マネジメント)	西村 友幸	35	34	97.1%
4		アカウンティングⅠ (財務会計)	堺 昌彦	34	26	76.5%
5		ファイナンスⅠ (コーポレートファイナンス)	手島 直樹	36	34	94.4%
6		ビジネス倫理	南 健悟	34	28	82.4%
7	基礎科目 (コア)	ビジネスシミュレーション	堺・芝・椎名 谷・渡部	32	31	96.9%
8		経営戦略Ⅱ (イノベーション戦略)	玉井 健一	23	21	91.3%
9		マーケティングⅡ (市場志向経営)	猪口 純路	29	25	86.2%
10		経営組織Ⅱ (問題解決能力の開発)	林 亜衣子	24	21	87.5%
11		経営組織Ⅲ (戦略的人的資源管理)	西村 友幸	15	15	100%
12		アカウンティングⅡ (コストマネジメント)	籾本 智之	27	24	88.9%
13		アカウンティングⅢ (予算管理と業績評価)	乙政 佐吉	15	13	86.7%

	区分	授業科目	担当教員	履修者数	回答者数	回収率
14	基礎科目 (コア)	ファイナンスⅡ (企業価値経営)	手島 直樹	11	8	72.7%
15		ビジネス法務Ⅰ (ビジネス法務の基礎)	石黒・河森 小林(友)・多木 竹村・片桐	7	6	85.7%
16		経済学・分析手法Ⅰ (行動意思決定の基礎) *	非開講			
17		経済学・分析手法Ⅱ (ビジネス統計分析)	西山茂・谷祐児	7	7	100%
18		経済学・分析手法Ⅲ (ビジネスエコノミクス) *	非開講			
19		ベンチャー経営Ⅰ (企業家精神)	瀬戸 篤	6	6	100%
20		地域経済・経営Ⅰ (プロジェクト・マネジメント)	宇田川 耕一	19	16	84.2%
21		地域経済・経営Ⅱ (北海道でのビジネス創造)	千葉 俊輔	13	11	84.6%
22		地域経済・経営Ⅲ (北海道経済の課題)	下川 哲央	5	5	100%
23		ビジネス英語Ⅰ (初級ビジネス英語)	浦島 久	13	9	69.2%
24		発展科目 (エレクトイブ)	統合科目Ⅰ (サービスマネジメント)	内田 純一	22	20
25	統合科目Ⅱ (企業変革とリーダーシップ)		吉村 仁	16	11	68.8%
26	統合科目Ⅲ (グローバルマネジメント)		李 濟民	7	7	100%
27	統合科目Ⅳ (戦略的CSR)		太田 稔	9	8	88.9%
28	アカウンティングⅣ (国際会計)		松本 康一郎	9	9	100%
29	ファイナンスⅢ (金融機関マネジメント)		齋藤 一朗	6	6	100%
30	ビジネス法務Ⅱ (知的財産マネジメント)		小寺・富田・太田	12	9	75.0%
31	ベンチャー経営Ⅱ (テクノロジービジネス創造)		瀬戸篤・武田立	3	3	100%
32	ベンチャー経営Ⅲ (アントレプレナーの起業戦略)		坂本 英樹	16	14	87.5%
33	ビジネス英語Ⅱ (初中級ビジネス英語)		小林 敏彦	4	8	100%
34	ビジネス英語Ⅲ (中級ビジネス英語)		小林 敏彦	7	6	85.7%
35	特殊講義Ⅰ (ノースウェスタン大学集中講義)		近藤・猪口			
36	特殊講義Ⅱ (地域医療マネジメント)		李・北川 他	6	6	100%
37	特殊講義Ⅲ (Demola program)		籾本・玉井 猪口・金子	8	8	100%

区分	授業科目	担当教員	履修者数	回答者数	回収率	
38	実践科目	ビジネスプランニングⅠ	齋藤・山本 内田・奥田 太田・井馬	33	25	75.8%
39		ビジネスプランニングⅡ	齋藤・手島 内田・奥田 太田・井馬	30	27	90.0%
40		ケーススタディⅠ	近藤・堺 西村・北川	35	33	94.3%
41		ケーススタディⅡ	玉井・篠本・猪口	29	24	82.8%
42	シラバス ワーク ビジネス ワークショップ	ビジネスワークショップ	玉井・篠本・李・ 瀬戸・小林(敏) 猪口・奥田	29	29	100%
43		リサーチペーパー	アントレ専攻 専任教員全員	29	28	96.6%
合計および平均			765	689	90.1%	

*非開講

※回答者数が履修者数を超過しているものは、回答者にリカレント受講生や現代商学専攻の受講生が含まれている。その場合、回答率100%を超えるが、そうした場合には、回答率をすべて100%に修正している。
科目番号35については、海外での集中講義のためアンケートを実施していない。

各質問項目に対する5段階評価の評価合計数と、各質問項目の平均評価値については、表3に示したとおりである。

表3 回答数と平均値

質問項目		カリキュラム	学力/ 資質/能力	シラバス 整合性	理解 促進	説明	資料	グループ ワーク	ディスカ ッション	時間外 学習	シラバス 時間外
回答 1	前期	0	1	0	1	1	1	1	1	0	0
	後期	0	0	1	2	1	1	4	2	0	2
回答 2	前期	2	2	2	5	9	5	5	5	2	5
	後期	2	2	3	6	2	2	4	2	3	4
回答 3	前期	12	13	18	19	20	19	20	20	35	16
	後期	15	20	18	24	27	37	31	36	22	21
回答 4	前期	51	51	44	49	65	57	50	57	68	71
	後期	62	56	57	65	64	60	53	65	51	66
回答 5	前期	289	287	290	280	259	272	271	271	249	262
	後期	258	259	258	240	243	237	228	232	261	244
1～5合計		691	691	691	691	691	691	667	691	691	691
平均		4.74	4.73	4.72	4.65	4.62	4.63	4.62	4.61	4.64	4.64

質問項目			学修管理システム 時間外	事前課題	事後課題	コメント	時間外対応	シラバス内容	学修管理システム 内容	シラバス成績	学修管理システム 成績	満足度
回答	1	前期	2	1	2	1	0	0	0	1	1	1
		後期	2	1	1	3	2	1	2	0	0	3
回答	2	前期	3	3	2	8	3	3	1	2	2	7
		後期	3	3	4	11	5	7	4	4	4	8
回答	3	前期	21	25	24	50	32	19	27	18	25	12
		後期	29	46	26	40	43	21	30	25	32	20
回答	4	前期	67	69	51	63	73	61	58	56	55	53
		後期	57	56	57	53	57	57	54	59	55	65
回答	5	前期	261	256	275	232	246	271	268	277	271	281
		後期	246	231	249	230	230	251	247	249	246	241
1～5合計			691	691	691	691	691	691	691	691	691	691
平均			4.63	4.58	4.66	4.47	4.55	4.66	4.64	4.68	4.64	4.65

質問項目	回答1		回答2		回答3		回答4		回答5		1～5合計	全項平均
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
合計	15	28	76	83	445	563	1,169	1,169	5,368	4,880	13,796	4.64

5段階評価の結果をみると、全ての質問項目について、平均値は概ね前年並みを維持し、全科目平均値は前年度の4.59に対して4.64に上昇した。評価値別では、今回のアンケートにおいて、回答「1」と「2」の評価は全体の1.5%、「5」の評価は全体の回答数の74.3%を占めている。なお、前年度の回答「1」と「2」の評価が全体に占める割合が1.1%、「5」の評価が68.6%となっている。

表4 平成19年度～令和元年度の満足度の推移

年度	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	令和元
満足度	4.30	4.21	4.13	4.31	4.43	4.42	4.33	4.50	4.56	4.36	4.37	4.60	4.65

表4は、平成19年度から今年度までの満足度の推移を示したものである。また表7には、科目ごとの各科目の評価値の結果を示した。前期終了時点と同様、これまでの推移を大きく上回った前年度を上回る評価を得ている。今後も高水準の満足度が持続できるような授業設計・運営を行うために、学生が何に対し満足し何に対し不満を持つのか、その理由を把握し共有を図ることが重要であると思われる。

項目間での相対評価で見ると、「事前課題」「時間外対応」の評価が相対的に低い。「事前課題」は「事後課題」との相関が高い項目であり、より受講生に学びの実感が得られるような課題の設計とそのフィードバックを検討する余地があろう。また、「時間外対応」については、学習管理システムを活用した適切な情報提供の仕方や受講生からの質問等があった場合の対応について情報共有を図るとともに、より効果的・効率的な学習管理システムの運用について議論を重ねていく必要がある。

第2章 アンケートの分析

2.1 「教員の教授法について」の分析

各質問項目間の相関係数については、表5に示したとおりである。これらの中から、満足度との相関関係および各質問項目の平均点を抽出したものが表6、それに基づき散布図を描いたものが図1 影響度・パフォーマンス・マトリクスである。

パフォーマンス・マトリクスにおいて第1象限に位置する項目は、満足度との相関が高くかつ評価も高い項目であり、本専攻の「強み」と考えられる。第4象限に位置する項目は、満足度との相関が高いにも関わらず評価が低い項目であり、本専攻において「優先的に改善が必要」と考えられる。第3象限に位置する項目は、評価が低い項目ではあるが満足度との相関が低いことから「改善の優先度は低い」と考えられる。第2象限に位置する項目は、満足度との相関が低いものの高い評価を得ていることから当面は「現状維持」が妥当であると考えられる。

(1) 本専攻の「強み」

令和元年度前期のデータに基づいてみると、本専攻の大きな「強み」は「カリキュラム」「学力/資質/能力」であり、本専攻の授業が合目的に編成されており、シラバスを通して授業内容が周知されていることが高く評価されていると考えられる。また、成績評価の方法・基準についても、シラバスの段階で適切に記載されていることが学生の満足度に繋がっていると考えられる。

「理解促進」「事後課題」も本専攻の強みとして挙げられ、学びの実感が得られるような事後課題の設定・運用と、種々の授業内容の理解を促進していく本専攻の基本的な取り組みが功を奏しているものと考えられる。これらの「強み」については、各授業の好事例の共有等を通じて、引き続き維持と向上を図っていくことが重要であると考えられる。

(2) 「優先的に改善が必要な項目」

他方で、本専攻において「優先的に改善が必要な項目」としては「資料」「グループワーク」「説明」が挙げられる。これらの満足度は、絶対値では高いと言える水準にあるものの、本専攻の基本的な授業提供方法に直結するものであり、これらの改善は重要であろう。「説明」については、前年度においても指摘されているが、話し方の明瞭さやパワーポイントの見やすさといった個々の教員のテクニカルな向上によって改善させることができるため、授業参観や研修会の開催等を通じて、個々の教員のスキルアップを図っていくことが重要であると考えられる。また、「資料」「グループワーク」についても、各授業の好事例の共有等を通じて、持続的な工夫を検討していくことが重要であると考えられる。

表 5 質問項目間の相関係数

	カリキュラム	学力/資質/能力	シラバス整合性	理解促進	説明	資料	グループワーク	ディスカッション	時間外学習	シラバス時間外	学修管理シテム時間外	事前課題	事後課題	コメント	時間外対応	シラバス内容	学修管理シテム内容	シラバス成績	学修管理シテム成績	満足度
カリキュラム	1.000																			
学力/資質/能力	0.846	1.000																		
シラバス整合性	0.725	0.685	1.000																	
理解促進	0.669	0.681	0.656	1.000																
説明	0.564	0.558	0.630	0.644	1.000															
資料	0.625	0.601	0.622	0.690	0.785	1.000														
グループワーク	0.604	0.599	0.543	0.700	0.596	0.674	1.000													
ディスカッション	0.582	0.581	0.558	0.655	0.585	0.653	0.846	1.000												
時間外学習	0.526	0.491	0.470	0.445	0.479	0.491	0.538	0.584	1.000											
シラバス時間外	0.693	0.659	0.745	0.692	0.649	0.684	0.602	0.597	0.563	1.000										
学修管理シテム時間外	0.634	0.600	0.685	0.623	0.587	0.629	0.536	0.518	0.459	0.825	1.000									
事前課題	0.559	0.560	0.564	0.575	0.499	0.546	0.584	0.610	0.578	0.603	0.558	1.000								
事後課題	0.640	0.610	0.632	0.604	0.551	0.582	0.613	0.584	0.601	0.615	0.588	0.709	1.000							
コメント	0.503	0.479	0.526	0.584	0.545	0.568	0.476	0.470	0.437	0.585	0.560	0.526	0.621	1.000						
時間外対応	0.525	0.468	0.540	0.568	0.563	0.590	0.508	0.511	0.446	0.592	0.655	0.528	0.575	0.624	1.000					
シラバス内容	0.708	0.667	0.746	0.700	0.627	0.680	0.597	0.606	0.557	0.848	0.742	0.634	0.688	0.633	0.675	1.000				
学修管理シテム内容	0.623	0.604	0.650	0.608	0.590	0.639	0.532	0.534	0.488	0.754	0.818	0.575	0.626	0.583	0.763	1.000				
シラバス成績	0.707	0.662	0.719	0.659	0.651	0.655	0.584	0.595	0.561	0.762	0.741	0.641	0.678	0.603	0.655	0.799	1.000			
学修管理シテム成績	0.640	0.598	0.656	0.585	0.624	0.634	0.519	0.528	0.493	0.686	0.773	0.585	0.633	0.586	0.727	0.717	0.853	1.000		
満足度	0.683	0.680	0.649	0.725	0.671	0.730	0.701	0.651	0.554	0.684	0.656	0.630	0.717	0.570	0.586	0.728	0.666	0.717	0.656	1.000

図1.影響・パフォーマンスマトリクス

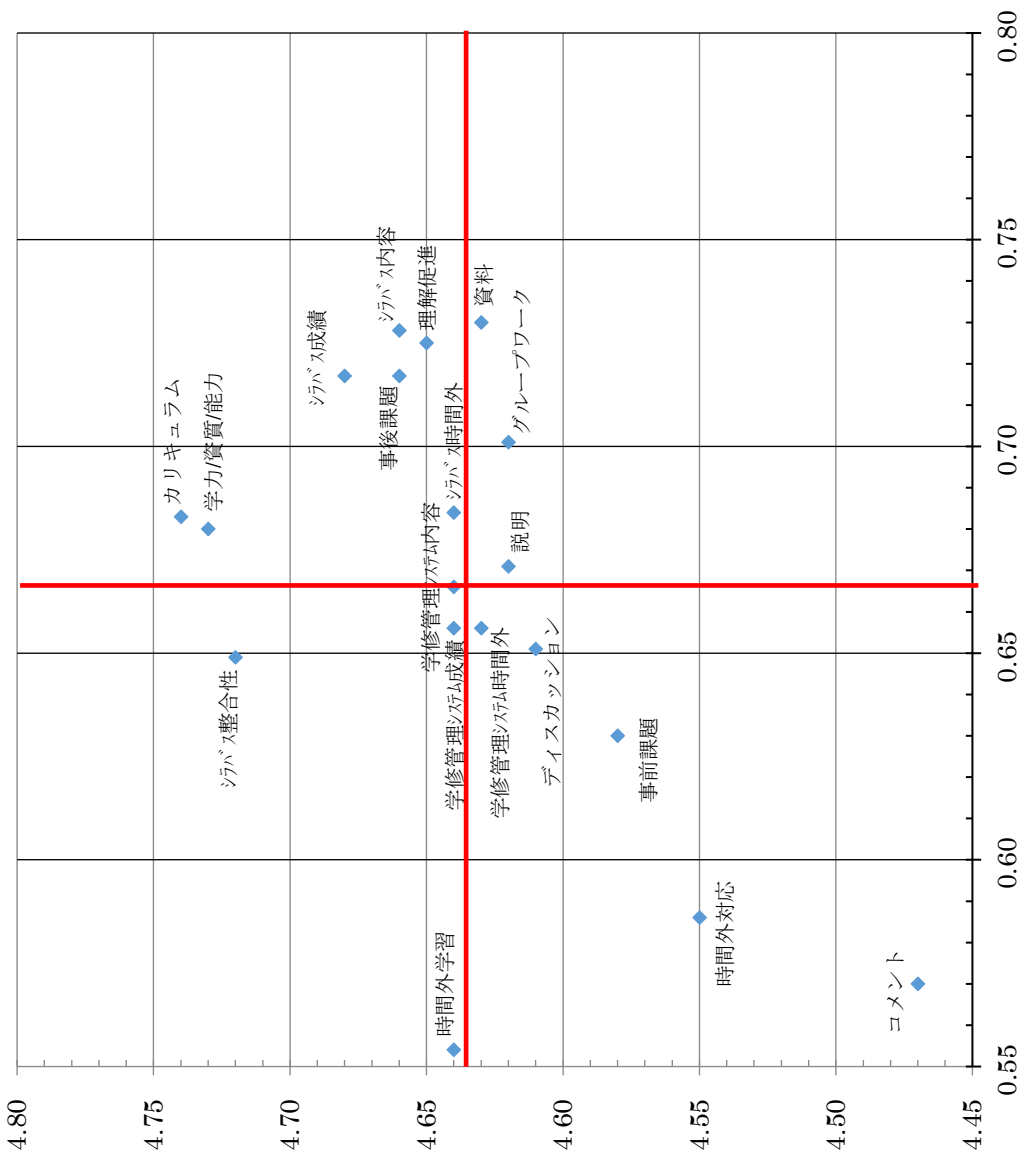


表 6 満足度との相関係数および各項目評価平均

各項目	各項目評価平均	全体満足との相関係数
カリキュラム	4.74	0.683
学力/資質/能力	4.73	0.680
シラバス整合性	4.72	0.649
理解促進	4.65	0.725
説明	4.62	0.671
資料	4.63	0.730
グループワーク	4.62	0.701
ディスカッション	4.61	0.651
時間外学習	4.64	0.554
シラバス時間外	4.64	0.684
学修管理システム時間外	4.63	0.656
事前課題	4.58	0.630
事後課題	4.66	0.717
コメント	4.47	0.570
時間外対応	4.55	0.586
シラバス内容	4.66	0.728
学修管理システム内容	4.64	0.666
シラバス成績	4.68	0.717
学修管理システム成績	4.64	0.656
平均	4.637	0.666

表7 個別科目ごとの評価値

区分	授業科目	開講時期	担当教員	カリキュラム	学力/資質/能力	シラバス整合性	理解促進	説明	資料	グループワーク	ディスカッション	時間外学習	シラバス時間外	学修管理システム時間外	事前課題	事後課題	コメント	時間外対応	シラバス内容	学修管理システム内容	シラバス成績	学修管理システム成績	満足度	
基本科目 (ベーシック)	経営戦略I (経営戦略)	前期	李	4.89	4.83	4.86	4.74	4.54	4.63	4.77	4.86	4.77	4.74	4.77	4.74	4.89	4.37	4.71	4.80	4.77	4.80	4.80	4.77	
	マーケティングI (マーケティング)	前期	近藤	4.85	4.82	4.85	4.88	4.94	4.91	4.85	4.88	4.88	4.91	4.76	4.85	4.88	4.82	4.76	4.88	4.79	4.91	4.85	4.85	
	経営組織I (組織行動マネジメント)	前期	西村	4.76	4.68	4.56	4.79	4.44	4.71	4.62	4.56	4.65	4.76	4.82	4.62	4.71	4.91	4.85	4.79	4.82	4.82	4.82	4.68	
	アカウンティングI (財務会計)	前期	堺	4.92	4.92	4.81	4.92	4.73	4.92	4.77	4.81	4.77	4.92	4.96	4.92	4.92	4.69	4.73	4.92	4.92	4.92	4.92	4.92	5.00
	ファイナンスI (コーポレートファイナンス)	後期	手島	4.62	4.50	3.79	4.29	4.47	4.44	3.77	3.79	4.41	4.47	4.50	3.91	4.38	4.29	4.38	4.38	4.44	4.44	4.50	4.53	4.32
	ビジネス倫理	前期	南	4.71	4.68	4.79	4.79	4.93	4.89	4.75	4.79	4.25	4.64	4.68	4.64	4.54	3.89	4.46	4.64	4.64	4.64	4.79	4.68	4.82
	ビジネスコミュニケーション	夏 semester	堺 外	4.81	4.77	4.71	4.81	4.77	4.77	4.81	4.81	4.71	4.71	4.71	4.58	4.48	4.35	4.55	4.77	4.71	4.71	4.65	4.65	4.81
	経営戦略II (イノベーション戦略)	後期	玉井	4.81	4.86	4.81	4.95	4.86	4.90	4.86	4.86	5.00	5.00	4.86	4.90	4.76	4.86	4.95	4.76	4.95	4.86	4.95	4.86	4.86
	マーケティングII (市場志向経営)	後期	猪口	4.76	4.72	4.56	4.80	4.76	4.56	4.64	4.56	4.76	4.84	4.80	4.76	4.64	4.44	4.76	4.76	4.76	4.72	4.72	4.72	4.56
	経営組織II (問題解決能力の開発)	後期	林	4.52	4.52	4.43	4.38	4.38	4.33	4.43	4.38	4.33	4.33	4.33	4.48	4.05	4.33	4.05	4.24	4.43	4.43	4.48	4.48	4.24
基礎科目 (コア)	経営組織III (戦略的人的資源管理)	前期	西村	4.80	4.73	4.73	4.80	4.73	4.73	4.73	4.73	4.73	4.73	4.87	4.73	4.73	4.80	4.80	4.80	4.80	4.80	4.87	4.87	4.80
	アカウンティングII (コストマネジメント)	後期	藤本	4.83	4.67	4.75	4.83	4.92	4.92	4.63	4.75	4.92	4.92	4.92	4.75	4.88	4.83	4.75	4.92	4.92	4.88	4.88	4.88	4.79
	アカウンティングIII (労務管理と業績評価)	前期	乙政	4.85	4.92	4.62	4.62	4.62	4.54	4.62	4.62	4.31	4.85	4.77	4.38	4.54	4.31	4.54	4.85	4.77	4.85	4.77	4.77	4.69
	ファイナンスII (企業価値経営)	前期	手島	5.00	5.00	4.25	4.38	4.75	5.00	5.00	4.25	4.38	4.50	4.75	4.50	5.00	4.63	4.88	4.75	5.00	4.75	4.88	4.88	5.00

区分	授業科目	開講時期	担当教員	カリキュラム	学力/資質/能力	シラバス整合性	理解促進	説明	資料	グループワーク	ディスカッション	時間外学習	シラバス時間外	学修管理システム時間外	事前課題	事後課題	コメント	時間外対応	シラバス内容	学修管理システム内容	シラバス成績	学修管理システム成績	満足度

ビジネスワークショップ	後期	玉井外	4.72	4.62	4.59	4.45	4.38	4.24	4.66	4.72	4.69	4.31	4.41	4.52	4.66	4.41	4.45	4.34	4.45	4.41	4.59	
	後期	7/10 軽 教員全員	4.79	4.86	4.71	4.71	4.50	4.44	4.71	4.71	4.68	4.68	4.64	4.64	4.71	4.64	4.46	4.75	4.68	4.68	4.68	4.68
		項目 平均	4.74	4.73	4.72	4.65	4.63	4.62	4.62	4.61	4.64	4.64	4.63	4.58	4.66	4.66	4.55	4.68	4.64	4.68	4.64	4.65
		全体 平均	4.64																			

※「経済学・分析手法Ⅰ（行動意思決定の基礎）」「経済学・分析手法Ⅲ（ビジネスエコノミクス）」は非開講のため、「特殊講義Ⅰ（ノーウェスタン大学集中講義）」は海外での集中講義のためアンケートを実施せず。

3章 まとめ

3. 1 分析結果のまとめ

今回のアンケート調査と分析を通じて、以下の点が明らかとなった。

- ▶ アンケート回収率が 90.1%と、前年度から大幅に改善した。前年度後期より紙媒体と Web の二つの方法で実施していることが影響したものと考えられる。とはいえ、さらなる回収率向上のために具体的な対策を検討していくことが望まれる。
- ▶ 全体の満足度は、これまでにない水準となった前年度をさらに上回り 4.65 となった。この評価が得られた理由の把握と共有により、今後も高い評価を得られるような授業の設計・運営を行なっていく必要がある。
- ▶ 本専攻の強みの一つは、「カリキュラム」「学力/資質/能力」に表される合目的な授業編成と受講生へのその周知である。今後も【カリキュラム・ポリシー】【学生に身につけさせたい学力・資質・能力や養成する人物像】に則った授業の設計とその適切な周知を図っていくことが必要である。
- ▶ 本専攻のもう一つの強みは、「理解促進」に見られるようにケース・メソッドの導入や対話・討論型の授業運営等を通じて理解促進を図る授業提供法にある。このような授業提供法は準備や運営にコストがかかるものの、本専攻の強みとして、引き続き維持・向上を図っていくことが重要である。また、質の高い事後課題も本専攻の強みであり、これについても引き続き向上を図っていく必要がある。
- ▶ 「優先的に改善が必要な項目」に分類されるのは「説明」である。「説明」は、話し方の明瞭さやパワーポイントの見やすさといった個々の教員のテクニカルな向上によって改善させることができるため、授業参観や研修会の開催等を通じて、個々の教員のスキルアップを図っていくことが望ましい。また、「資料」「グループワーク」についても、優先的に改善が必要な領域であり、持続的な工夫を検討していくことが重要であろう。

3. 2 今回の研修で確認・議論しておきたい点

これまでのアンケート調査と分析の結果を踏まえ、今回のFD研修においては、以下の点について確認や議論をおこないたい。

- ▶ アンケートの回収率は前年度から比べて大幅に改善したが、なお課題のある水準である。改善率のさらなる向上のために、具体策を検討したい。
- ▶ 本専攻の強みの一つとして、合目的な授業編成とその周知が挙げられる。各教員がいかにしてポリシーや本専攻の目指す学生像に則った授業を設計し、その周知を図っているかについて情報を共有したい。
- ▶ 本専攻のもう一つの強みとして、満足度の高い事後課題が挙げられる。この点について、各教員がどのような工夫をしているのか、どのような課題を認識しているのかについて議論と知識の共有を行いたい。
- ▶ 優先的に改善が必要な項目として「説明」が認識されている。これは個々の教員のスキルアップに依る部分が大きいですが、そのための取り組みについて議論を行いたい。

—実施報告—

第4章 平成30年度～令和元年度

FD 研修会・シンポジウム等

平成 30 年度 FD 研修会

テーマ：【第 1 部】学外で実施する正課授業（研究指導を含む）におけるリスク管理について
【第 2 部】（1）高等教育における実践的アクティブラーニング（PBL）の現状と
ボランティアの単位化について
（2）小樽商科大学におけるグローバルブリッジ教育プログラムの概要と
そのリスク管理について—事例から学ぶ海外研修でのリスク—

開催日時 | 平成 31 年 2 月 8 日（金）13 時 10 分～14 時 20 分

参加者数 | 23 名

【第 1 部】

学外で実施する正課授業において、リスク管理が必要となってきた昨今の背景を説明した上で、「学外で実施する正課授業におけるリスク管理の手引き」の作成経緯や、その全体像及び注意事項等を紹介した。

【第 2 部】：リスク管理についての事例紹介

（1）

地域連携ブリッジ教育プログラムのうち「商大生が小樽の活性化について本気（マジ）で考えるプロジェクト（通称：本気プロ）」の歩みを説明し、そのリスク管理における対応事例を紹介した。また、平成 31 年度から開講のボランティア科目（社会連携実践 b クラス：サービスラーニング）を紹介した。

（2）

本学で実施しているグローバルブリッジ教育プログラム（アジア・オセアニア事情、アメリカ事情、ヨーロッパ事情）の内容に触れつつ、実際に学生を海外に派遣することで起こりうるトラブルやその対処法について、事例を踏まえて紹介した。

令和元年度 FD 研修会

テーマ：「単位の実質化」について

開催日時 | 令和2年2月7日（金）13時15分～14時15分

参加者数 | 37名

1.1 大学機関別認証評価大学評価基準

平成30年度に大学機関別認証評価大学評価基準が改正されたことに伴い、その改正内容を、新旧対照表（平成30年度基準と平成31年度基準）を用いて説明した。

1.2 シラバスの充実

認証評価の基準見直しによって、分析項目に係る根拠資料としてシラバスの提出が求められることに伴い、シラバスの実態が、授業内容の概要を総覧する資料と同等のものにとどまらないよう、その記載について具体例を示しながら説明した。

学長・理事を対象とした「ジェネリックスキル評価報告会」の開催

開催日時 | 令和1年7月24日（水）

参加者数 | 15名

総合科目Ⅱ履修生を対象とした GPS-Academic テストの結果を踏まえ、学長、理事をはじめとした学内関係者を対象に、「ジェネリックスキル評価報告会」を実施し、アセスメントテストの結果報告、教学 IR の観点に立ったアセスメントの活用、他大学での活用事例等について意見交換を行った。

アクティブラーニングシンポジウム 2019

第1部：基調講演

「Society5.0 と教育改革」

第2部：分科会

(1) 「英語教育（グローバル教育）」関係

- ・ 小学校における英語教育
- ・ 高校におけるグローバル教育
- ・ ギャップイヤープログラム

(2) 「情報教育」関係

- ・ 初等教育におけるプログラミング教育
- ・ 高校におけるプログラミング教育
- ・ 大学におけるデータサイエンス教育

開催日時 | 令和1年12月7日（土）

参加者数 | 81名

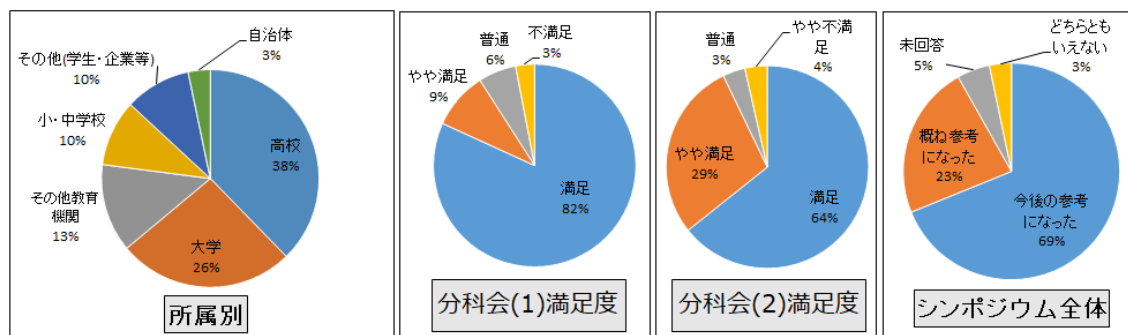
第1部の基調講演では、「Society5.0 と教育改革」と題して、これからの社会と教育、情報活用能力の育成、外国語教育及びICT活用の推進、学校におけるICT環境整備を中心に、初等中等教育における国の施策と現場の取組状況について報告が行われた。

第2部では、「英語（グローバル）教育」と「情報教育」の2つの分科会が行われた。

「英語（グローバル）教育」では、①「小学校英語教育の現状と実践—大学生の視点から—」について、②『「国際教養科」のノウハウを校内に波及させる授業展開と学科マネジメント～「グローバル」に考え、「ローカル」で活躍する生徒の育成』について、③『ギャップイヤープログラム「留学から始まる大学生活」』について、「なぜ？」を考える英語教授法」について報告し、意見交換を行った。

また、「情報教育」では、①「プログラミング教育の開始に向けて」について、②「高校のプログラミングの授業実践報告～初学者でも楽しく主体的に学べるプログラミングを目指して～」について、③「データサイエンス教育を大学改革の旗印に」について報告し、意見交換を行った。

【参加者のアンケートの結果】



アンケートの回答では、参加者の大部分が学生と教育関係者で占められ、最も多いのは高校生であった。

概ね好評で、分科会(1)では最大評点「満足」が80%を超えた。感想の自由記述では、好意的な意見が多くあり、一方で「組織的取組の紹介」や「話し合いの時間増設」などが要望され、改善の目処も得られた。

12 / 7 (Sat)
2019年

START ▶ 13:00-16:00 (受付 12:30~)
小樽商科大学 4号館160CL教室
(北海道小樽市緑3丁目5番21号)



ACTIVE LEARNING SYMPOSIUM 2019

グローバル社会、AI時代に求められる小・中・高・大の教育とは何か。
「英語(グローバル)教育」「情報教育」の各分野におけるアクティブラーニングに触れ、
ディスカッションすることを目的としたシンポジウムです。

グローバル社会・AI時代に求められる 小・中・高・大の教育

—ACTIVE LEARNING×学外学修×初中等教育—

参加無料

PROGRAM

13:00-13:05

開会挨拶:小樽商科大学長 和田 健夫

13:05-13:50

基調講演:文部科学省 初等中等教育局 情報教育・外国語教育課
課長補佐 齋藤 幸義 氏
テーマ:Society5.0と教育改革

14:00-16:00

分科会

(1) 英語教育(グローバル教育)

【事例報告】

- ・小学校における英語教育
- ・高等学校におけるグローバル教育
- ・大学におけるグローバル(英語)教育(小樽商科大学)

(2) 情報教育

【事例報告】

- ・小学校におけるプログラミング教育
- ・高等学校におけるデータサイエンス教育
- ・大学におけるデータサイエンス教育(北見工業大学)

※分科会の内容は、随時ホームページにて更新します。

ACCESS

会場:小樽商科大学4号館160CL教室

小樽商科大学 10min JR小樽駅
バス・タクシー
利用

「小樽駅前」ジェイアールバス②乗り場より中央バス小樽商大線に乗り、終点の「小樽商大前」下車(乗車時間約10分)



お申込
方法

下記URLよりお申し込みください。
<http://www.otaru-uc.ac.jp/cgs/esd/alsymposium/>
申込締切 | 11月22日



お問合せ

小樽商科大学 教務課教務企画係
TEL:0134-27-5236
Mail:k-kikaku@office.otaru-uc.ac.jp

あ と が き

平成30年度
CGS教育支援部門スタッフ一覧

教育支援部門運営会議		
教育支援部門長		佐野博之
教育支援副部門長		大津晶
教育支援副部門長		田島貴裕
	CGS副センター長 (教育担当副学長)	鈴木将史
	学部教育開発専門部会長	副島美由紀
	大学院教育開発専門部会長	穴沢眞
	専門職大学院教育開発専門部会長	齋藤一郎
学部教育開発専門部会		
部会長		副島美由紀
	教育支援部門長	佐野博之
	CGS副センター長 (教育担当副学長)	鈴木将史
	教育支援副部門長	大津晶
	教育支援副部門長	田島貴裕
	学部教務委員会委員長	河森計二
		白田康洋
		小倉一志
		金鎔基
		三浦克宜
		岡部善平
大学院教育開発専門部会		
部会長		穴沢眞
	大学院現代商学専攻長	金鎔基
	大学院現代商学専攻教務委員会委員長	佐野博之
		坂東雄介
		李賢峻
		白田康洋
		小泉大城
		佐々木香織
専門職大学院教育開発専門部会		
部会長		齋藤一郎
	大学院アントレプレナーシップ専攻長	玉井健一
		堺昌彦
		出川淳
		西村友幸
キャリア教育開発専門部会		
部会長	教育支援部門副部門長	大津晶
	教育支援部門長	佐野博之
	教育支援副部門長	田島貴裕
	CGS副センター長 (教育担当副学長)	鈴木将史
	学部教務委員会委員長	河森計二
	教務課長	藏重治
	学生支援課長	安部田康弘

平成 30 年度 CGS 教育支援部門の活動状況等

(1) 第 1 四半期 (2018 年 4 月～6 月)

- ・ 4 月：キャリア教育に係るアセスメントテスト実施
- ・ 4 月：コンピテンシー評価ツール「GROW」実施
- ・ 4 月～：AL サポートセンターにおける相談業務を随時実施
- ・ 4 月～：正課授業「社会連携実践 I～III (a クラス：ビジネスインターンシップ)」実施
- ・ 4 月～：正課授業「社会連携実践 I～III (c クラス：プロジェクトラーニング)」実施
- ・ 4 月～：正課授業「社会連携実践 I～III (b クラス：サービスラーニング)」開講について検討開始
- ・ 4 月 4 日：新任教員研修会
- ・ 4 月 18 日：本気プロ中間発表会
- ・ 4 月 18 日：初等中等英語教育連携協議会
- ・ 5 月 9 日：(アントレ) FD 研修を実施
- ・ 6 月 23 日～24 日：ルーキーズキャンプ
- ・ 6 月：(学部) 学科単位での授業改善の取り組み
- ・ 6 月～：(アントレ) 授業参観実施

(2) 第 2 四半期 (2018 年 7 月～9 月)

- ・ 7 月：(学部) 授業改善のためのアンケート
- ・ 7 月：(アントレ) 前期授業評価アンケート
- ・ 7 月：本気プロ最終発表会
- ・ 7 月～：AL サポートセンターにおける相談業務を随時実施
- ・ 7 月～：正課授業「社会連携実践 I～III (a クラス：ビジネスインターンシップ)」実施
- ・ 7 月～：正課授業「社会連携実践 I～III (c クラス：プロジェクトラーニング)」実施
- ・ 8 月～9 月：道内各地方において地域連携ブリッジ教育プログラムにおける連携先企業等の開拓
- ・ 9 月 7 日：北海道 FD・SD フォーラム (公開討論と個人発表) 開催 (場所：北海道大学)
※中止
- ・ 9 月 8 日：北海道 FD・SD フォーラム (シンポジウム) 開催 (場所：小樽商科大学)
※中止
- ・ 9 月 9 日：札幌市立高等学校の高大連携協定に係る連携事業実施※中止
- ・ 9 月 19 日：北海道地区 FD・SD 推進協議会総会
- ・ 9 月 19 日：北海道地区 FD・SD 推進協議会「アクティブラーニング研究会」を設置

(3) 第3四半期 (2018年10月～12月)

- ・10月～：ALサポートセンターにおける相談業務を随時実施
- ・10月～：教育活動を支援する仕組みについて検討
- ・10月17日：初等中等英語教育協議会
- ・11月7日：アントレプレナーシップ専攻FD研修会
- ・11月14日：学生論文賞第一次審査（プレゼンテーション）
- ・11月～：（アントレ）後期授業参観
- ・12月8日：初等英語教育支援プロジェクト報告会（於：小樽商科大学教職研究会）
- ・12月12日：アントレプレナーシップ専攻FD研修会（manaba活用ワークショップ）
- ・12月～1月：学生論文賞最終審査（2月：結果発表）
- ・12月～1月：卒業生動向調査実施（平成19年度、平成27年度卒業生対象）

(4) 第4四半期 (2019年1月～3月)

- ・1月～：ALサポートセンターにおける相談業務を随時実施
- ・1月～：正課授業「社会連携実践Ⅰ～Ⅲ（aクラス：ビジネスインターンシップ）」実施
- ・1月～：正課授業「社会連携実践Ⅰ～Ⅲ（cクラス：プロジェクトラーニング）」実施
- ・1月～：（学部）授業改善のためのアンケート
- ・1月～：（大学院）大学院FDアンケート
- ・1月～：（アントレ）後期授業評価アンケート
- ・1月～：教育活動を支援する仕組みについて検討
- ・1月～：アクティブラーニングに関する教育成果検証実施方針検討
- ・1月27日：本気プロ最終発表会
- ・2月：「学外で実施する正課授業におけるリスク管理に関する手引き」作成
- ・2月8日：学部FD研修会（学外で実施する正課授業におけるリスク管理について）
- ・3月13日：学生論文賞表彰式

令和元年度
CGS教育支援部門スタッフ一覧

教育支援部門運営会議		
教育支援部門長		佐野博之
教育支援副部門長		大津晶
教育支援副部門長		田島貴裕
	CGS副センター長 (教育担当副学長)	鈴木将史
	学部教育開発専門部会長	岡部善平
	大学院教育開発専門部会長	白田康洋
	専門職大学院教育開発専門部会長	堺昌彦
学部教育開発専門部会		
部会長		岡部善平
	教育支援部門長	佐野博之
	CGS副センター長 (教育担当副学長)	鈴木将史
	教育支援副部門長	大津晶
	教育支援副部門長	田島貴裕
	学部教務委員会委員長	伊藤一
		金鎔基
		三浦克宜
		白田康洋
		竹村壮太郎
		章天明
大学院教育開発専門部会		
部会長		白田康洋
	大学院現代商学専攻長	金鎔基
	大学院現代商学専攻教務委員会委員長	ホルスト マーク
		佐々木香織
		木村泰知
		林松国
		橋本伸
		片山昇
専門職大学院教育開発専門部会		
部会長		堺昌彦
	大学院アントレプレナーシップ専攻長	齋藤一朗
		出川淳
		西村友幸
キャリア教育開発専門部会		
部会長	教育支援副部門長	大津晶
	教育支援部門長	佐野博之
	教育支援副部門長	田島貴裕
	CGS副センター長 (教育担当副学長)	鈴木将史
	学部教務委員会委員長	伊藤一
	教務課長	藏重治
	学生支援課長	安部田康弘

令和元年度 CGS 教育支援部門の活動状況等

全体 (2019 年 4 月～)

- ・ 4 月～：アクティブラーニングに関する教育効果検証実施要項の策定
- ・ 4 月～：キャリア教育（総合科目Ⅱ）におけるアセスメントテスト（GPS-Academic）の実施
- ・ 4 月～：コンピテンシー評価ツール「GROW」実施（学外学修が中心）
- ・ 4 月～：AL サポートセンターにおける教室機器サポート等を随時実施

(1) 第 1 四半期 (2019 年 4 月～6 月)

- ・ 4 月 3 日：新任教員研修会
- ・ 5 月 8 日：(アントレ) FD 研修会
- ・ 5 月 25 日～26 日：ルーキーズキャンプ (三大学)
- ・ 5 月：グローバルプロジェクト公募【教育分野】(募集期間：5 月 31 日～6 月 21 日)
- ・ 6 月：(学部) 学科単位での授業改善の取り組み
- ・ 6 月～：(アントレ) 授業参観実施

(2) 第 2 四半期 (2019 年 7 月～9 月)

- ・ 7 月：(学部) 授業改善のためのアンケート
- ・ 7 月：(アントレ) 前期授業評価アンケート
- ・ 7 月 24 日：学長・理事を対象とした「ジェネリックスキル評価報告会」開催
- ・ 8 月 29 日～30 日：東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会参加
- ・ 8 月 30 日：IDE セミナー参加
- ・ 9 月：札幌市立高等学校の高大連携協定に係る連携事業実施
- ・ 9 月 6・7 日：北海道 FDSD フォーラム (主催：北海道地区 FD・SD 協議会) 参加

(3) 第 3 四半期 (2019 年 10 月～12 月)

- ・ 11 月～：(アントレ) 後期授業参観
- ・ 11 月～：(大学院) 大学院 FD アンケート
- ・ 11 月 8 日：アントレプレナーシップ専攻 FD 研修会
- ・ 11 月 13 日：学生論文賞第一次審査 (プレゼンテーション)
- ・ 11 月～12 月：学生起業支援セミナー (11/20, 12/10)
- ・ 12 月 7 日：北海道地区アクティブラーニング研究会・シンポジウム開催
- ・ 12 月～1 月：学生論文賞最終審査 (2 月：結果発表)
- ・ 12 月～1 月：卒業生アンケート調査実施 (平成 20 年度、平成 28 年度卒業生対象)

(4) 第4四半期(2020年1月～3月)

- ・ 1月：卒業年次生アンケート(卒業論文提出時)
- ・ 1月～：(学部)授業改善のためのアンケート
- ・ 1月～：(アントレ)後期授業評価アンケート
- ・ 1月13日：小樽市教育委員会連携事業(小学校教員向け英語関連講座)
- ・ 2月7日：学内FD研修会(単位の実質化)開催
- ・ 2月：GMPアンケート
- ・ 3月：小樽商科大学FD活動報告書の作成
- ・ 3月：学生論文賞表彰式※中止
- ・ 3月19日：学内FDワークショップ(グローバルプロジェクト教育分野成果報告会)
※延期

編集

令和元年度小樽商科大学グローバル戦略推進センター教育支援部門運営会議

部門長	佐野 博之	(経済学科教授)
副部門長	大津 晶	(社会情報学科准教授)
副部門長	田島 貴裕	(教育支援部門准教授)
	鈴木 将史	(理事, 教育担当副学長)
	岡部 善平	(一般教育等教授)
	白田 康洋	(経済学科准教授)
	堺 昌彦	(アントレプレナーシップ専攻教授)

	藏重 治	(教務課長)
	河崎 智之	(教務課教務企画係長)
	高桑 将来	(教務課教務企画係)
	稲童丸 翔	(教務課教務企画係)

ヘルメスの翼に—小樽商科大学 FD 活動報告書— 第 12 集

発行日 令和 2 年 5 月 1 日

発行所 国立大学法人 小樽商科大学グローバル戦略推進センター教育支援部門
〒047-8501 小樽市緑 3 丁目 5 番 21 号

TEL : 0134-27-5240 / FAX : 0134-27-5238

E-mail : ced-sc@office.otaru-uc.ac.jp